

令和2年度 社会福祉法人えどがわ評議員会・理事会

実施日	議 案	場 所	出席人数
令和2年 6月5日（金） 第95回理事会	①令和元年度事業報告について ②令和元年度決算報告について ③定時評議員会の招集について	社会福祉法人 えどがわ 事務局会議室	7名
令和2年 6月24日（水） 第82回評議員会	①令和元年度事業報告について ②令和元年度決算報告について	書面決議	10名
令和2年 9月23日（木） 第83回評議員会	①令和2年度事業報告(中間報告)について ②令和2年度補正予算（案）について ③規程等の改正（案）について	グリーンパレス 孔雀	13名
令和2年 9月23日（木） 第96回理事会	①令和2年度事業報告(中間報告)について ②令和2年度補正予算（案）について ③規程等の改正（案）について	グリーンパレス 孔雀	10名
令和2年 12月22日（火） 第84回評議員会	①令和3年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③規程等の改正（案）について ④令和2年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	9名
令和2年 12月22日（火） 第97回理事会	①令和3年度事業計画（案）について ②給食調理業務委託者の選定について ③規程等の改正（案）について ④令和2年度第2回補正予算（案）について	タワーホール船堀 瑞雲	8名
令和3年 3月22日（月） 第85回評議員会	①令和2年度補正予算（案）について ②令和3年度当初予算（案）について ③規程類の改正（案）について	タワーホール船堀 福寿	12名
令和3年 3月22日（月） 第98回理事会	①令和2年度補正予算（案）について ②令和3年度当初予算（案）について ③規程類の改正（案）について	タワーホール船堀 福寿	7名

令和2年度 葛西おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	一人一人の子ども達が安心・安全・快適に過ごせる保育環境を整える。また、子どもの心をしっかり受け止め、自分らしさを表現できるように保育を心掛ける。 生きるために大切な「食」の大切さや楽しさを伝えていく。	アルコール消毒を徹底し、受け入れ時には家庭での様子や検温票(子どもの健康状態)を必ず確認した。 子ども達が、集中して遊び込めるように導線を考え、生活や遊びの空間を工夫した。 好き嫌いや偏食のある子が多い為、家庭と連携を取り、少しでも食べられる様取り組んだ。
教 育	子どもの興味・関心を大切に、遊びこめる環境を工夫する。 和太鼓・リトミック・英語を日々の保育の中に取り入れる。 行事を見直し、工夫して取り組む。	コロナで自粛中に、保育のアイデア教材などを作成した。コロナ禍で不安な子ども達の心に寄り添いながら主体的に楽しめる保育を工夫した。今後も保育が楽しめるよう実践していきたい。 緊急事態宣言が発令され、専科や行事が中止や縮小。保育園の様子が見えなくなった為、ブログや掲示物等を細目に発信し、保護者のニーズに答えた。
子 育 て 支 援	子育てひろばや保育所体験を開催し、地域との関わりを大切にしアドバイスしていく。 保護者会、個人面談で情報を共有し、成長を見守り支援する。	計画はしていたが、新型コロナウイルス感染予防の為、子育てひろばや保育所体験は行えなかった。 今後は地域と関わる方法を考え、発信できるよう努力していきたい。 三密を避けるため、保護者会はクラス毎に実施した。また、個人面談は期間を設けず希望制とした。 一方、育児不安のある家庭に関しては細目に声を掛け、保護者が相談しやすい環境を設定した。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

感染症予防を第一に考え、クラス単位の保育を実施。職員は毎日の検温、マスク着用、手洗い、換気、園児が触れる場所及び保育終了後の玩具のアルコール消毒の徹底に努めた。保護者の入室も制限し、テラスでの受け入れ、引渡しを実施。保育園の環境に合わせ「おひさま保育園の新しい生活様式」を会議等を踏まえ、職員と話し合いを行い、確認、その都度保護者に配布を行った。
空気清浄機の購入や衛生用品(アルコール・ペーパータオル等)を事前に多く用意をしたので、いざという時にゆとりを持ち対応する事ができた。
園児の検温の徹底・健康確認を毎日行い、全職員で確認。消毒や換気の効果で、冬に流行るインフルエンザや流行性胃腸炎等の感染症の発症が無かった。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

満足以上の回答が94.1%。先生方が優しい方ばかり、クラスでない先生も柔軟に対応してくれ感謝していると高評価であった。一方で、「人による」「先生方の認識が一致していない」と指摘もあった。出来る限り、子どもの様子を保護者に伝達できるよう今後の課題として取り組む。
登降園の際、正門が開いたままになっていて危険であるという意見があった為、園便りや掲示、または声をかけて安全対策に努めた。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員同士の人間関係が良好であり、楽しくやりがいを持って働ける。前年度より良いと思う点は、職員一人一人が、視野を広く向け問題解決への意識が高まってきている。特に改善したい点は、子どもの為の行事ではなく、保護者の為になりすぎている為、行事を見直すことを発信した。報連相の強化。早急に職員と話し合いを設け原因を探り改善をしていく。

5. 1年の総括

コロナ禍に対する「新しい生活様式」を状況に合わせ細目に更新し、保護者に発信した。密を避け、常に手洗い・消毒を心掛けた。また、職員全員で話し合い子ども達が充実した生活が送れるよう努めた。保護者としては、子どもの成長を楽しみにしていた行事が中止や縮小となり、不満の声がもったため、ブログの回数を増やした。緊急事態宣言が解けると同時に、通常通りの登園率になった。マスクの着用率は幼児はクラスで3名～5名位。園内研修は、職員が行いたい研修が実施できたので、次年度も引き続き計画を立てて実施。職員の休憩取得・有休取得は年々上昇の傾向に伴い、職員の気持ちのゆとりも生まれ、より働きやすい環境になってきている。

令和2年度 新堀おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	一人一人、快適に安全に生活できるよう環境を整え、遊びの保証をした。発達過程を把握し、欲求を満たしながら適切に働きかけた。1歳児は緩やかな担当制のもと信頼関係を築き、丁寧な保育に心掛け安心して生活できるようにした。	保育室を子どもたちが快適に安全に生活できるよう生活の環境・遊び・玩具の見直しをし整えた。幼児のフロアは廊下の行き来に視覚的要素を多く入れたことで衝突などの事故も減り、保育室の棚の高さを低くし、解放感と明るさが増した。乳児においては環境を整えたことでより見通しを持って生活するようになったが玩具が少なく、遊び込めない場面もあり、次年度整えていきたい。
教育	コロナ禍において、様々な体験が出来るよう工夫し取り組んだ。その中で、一人一人が様々な体験を通し、関わることで相手の気持ちに共感し、自分の気持ちを伝えられるように配慮出来るようにした。	コロナ禍においても様々な体験が出来るように職員間で意見を出し合い、工夫し取り組んだ。従来と同じ取り組みではなかったが子どもたちは楽しみながら様々な体験を経験する姿があった。リモートでの取り組みなど次年度工夫し、様々な経験を子どもたちに提供していきたい。
子育て支援	子どもたちの育ちを家庭と連携して支援した。保育所体験や子育てひろばなど地域とのかかわりを大切に保育士の専門性を活かし子育ての喜びを感じられるようにする。	新型コロナウイルスの影響を受け、保育所体験や子育てひろばなど地域との関わりは難しかった。日々子どもたちの育ちを保護者の園舎入室制限の中、保護者に出来るだけ伝え、必要に応じて感染予防を行い、個人面談も行った。コロナ禍で仕方がないという保護者の声も多かったが、リモートでの取り組みなどを考え、より子育て支援に繋がる取り組みが必要だと感じた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

保育室・遊戯室に空気清浄機を購入し設置。1階廊下には送風機を設置し、常時換気出来る状況にした。また、各場所の排煙窓も常に開け換気をしている状態で保育を行った。園児の手洗いや口拭きはペーパータオル・ウェットティッシュなどを使い対応、食事前の手指消毒を実施した。環境上、乳児の保護者においては、テラスからの園児受け入れ引き渡しを行い、幼児については2階に保育室があるため、園舎内に入ってから受け入れ・受け渡しだが「健康伝達カード」を作成し、受け入れ・引き渡しをスムーズに行い、園舎内に滞在する時間を短くする配慮した。また正面玄関の横に水道がある為、保護者園児共に登降園時に手洗い・手指消毒を依頼し現在も実施した。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

子どもに関する保育や食事などの評価は高く、今後も見直しをしながらより良い保育を提供していきたい。しかし全体の回収率が低く、また、自園の保育目標を理解されていない保護者も多いことがわかり、今後は園だよりなどに保育目標を毎回記載するなどし、周知理解してもらう。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

子どもの対応については、全員が意識高く取り組んでいることがわかり、引き続き業務に取り組んで欲しいと思う。ただマネジメントにおいて理解が乏しいのが浮き彫りとなった。職員により分かりやすく理解できる発信が必要。また今年度大幅な職員の入れ替えがあったが関係が良好なことも職員自己評価で把握できた。しかし経営層に対する不満の声も多く、説明、対応した。

5. 1年の総括

大幅な職員の入れ替えがあり、既存の職員と異動・新入職してきた職員と子どもに対する想いが、保育の展開と職員の円滑な人間関係に繋がるよう、職員一人一人の想いに寄り添い、環境を整え、保育の見直しを行った。職員間での人間関係は良好と評価で確認することが出来た。経営層に対する不満が多く、より一層現場の意見に耳を傾け業務改善に尽くし尊重と尊敬の豊かな人間関係を構築していきたい。新型コロナウイルス感染症の影響により、法人の新しい生活様式を園の環境と照らし合わせて、その都度生活様式を見直しを行った。緊急事態宣言もあり、登園人数が少ない時期もあったが事故の件数も昨年度に比べ前半は半分以下となった。戸外に出ることが少なくなったが、室内での遊びも充実できるようになった。後半は肘内障の通院が重なった。ヒヤリハットの報告が昼礼で多くあるが、記録に残すことが抜けてしまうことが多いため、職員で都度共有し改善、事故件数を減らしていきたい。

令和2年度 東小松川おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	充実と質の向上として、一人一人の発達を把握、理解し要求や思いを受け止め、丁寧な保育に繋げる。様々な遊びを通して成長にあった玩具や心に響く環境を整えていく。保護者に対しても寄り添い安心して利用できる関係を築く。	一人一人の発達や家庭環境等をとらえ、各家庭ごとの支援を行った。また、朝昼礼・会議等で職員全員が情報を共有し支援。様々な保育の取り組みに見通しを持ち、分かりやすく示す事が出来た。その結果、子どもが主体的に行動し、達成感を味わい、自信を持つ事が出来た。保護者との日常的な話やブログ等を活用し、日々の保育の状況を発信、話すことで信頼関係を築くことが出来た。
教育	保育計画において、保育士全員で計画・実行・結果・評価・改善の繰り返しを行い、連続性のある内容を作成する。園外保育等で公共のマナーやルールの大切さを身につける。	コロナ禍の中、園外に出る事が出来なかったが、園舎内の廊下に「とまれ」などの標識を貼り、ルールを学ぶ事が出来た。密にならない様に配慮し、ホールでの活動は、1クラスごと行うように計画を立て行った。改善点等は、昼礼や職員会議で検討した。保育を今まで以上に掘り下げ、検討し、新たな遊びを子どもが主体的に考えられるよう子どもの目線や興味、関心を持てるように心掛けた。
子育て支援	保育参観、体験を通して保育園を身近に感じてもらい、子どもが保育園でどのように生活を送っているかに関心を持ってもらう。子育てひろばの充実として、様々な内容を取り入れ、プログラムを作成、地域の子育て支援を行う。	保育参観や体験・子育てひろばは、緊急事態宣言や蔓延防止措置の為、中止となり「新しい生活様式」を取り入れなら保育室の外から保育の見学をしてもらった。外からでも保育園の様子が見られたので「安心しました」との意見を頂いた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

緊急事態宣言中に園舎の消毒、拡大防止対策としてうがい・手洗い・手指消毒・検温・換気を徹底した。行事等に関しては「新しい生活様式」を取り入れ、出来る範囲で行うことが出来、保護者の方が中止や延期等を承諾しながらも縮小し、行う事が出来た事で、成長が少しでも見られ、保育士の努力を称賛していた。保育内容を子どもの目線に立ち、主体的に遊べる環境を設定することが出来た。実際に保育する中で危険箇所等を話し合い、長年使用していなかった園庭の遊具を撤去した。砂を利用して子どもたちと一緒に土のう作り、水害について分かりやすく説明することが出来た。今後、園庭門の開閉についてオートロックについて見なおしが必要と考える。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

園庭門の防犯について不安の声が多く、改善策を考え安全面を強化して行く。園庭やホールの広さがあり、緑道面に接して自然環境も良く、子どもの心身の発達に非常に良いと評価が高い。保育士の保護者に対するコミュニケーションが良いと称賛はあったが、一部同じ声掛けばかりで園の様子をわからない等あり、改善する。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

会議等において意見や発言が増え、少しずつ風通しの良い状況になっている。まだ完全とは言えないものの、型にはまった保育方法も子ども達一人ひとりの状況に合わせた保育方針にへ移行しつつあるように感じられる。上司に対して自身の考えを伝えられる環境である。少しずつではあるが、嬉しい評価が上がっている。

5. 1年の総括

コロナ禍の中、どのように保育を行っていくか、話し合う機会を多く持ち、子どもの目線に立ち、子どもが主体的に考えられる環境を少しずつではあるが、考えることが出来た。行事中心は、昨年同様だが、日々の保育の中で、行事に繋げていくか思案していく過程である。保育園の雰囲気が子どもや保護者に安心感を与えるので職員間は、常にコミュニケーションを図り、保護者に対して一言を意識した。異動して来た職員と既存の職員が半々位の中、他園との違いに戸惑いを感じていたが、話し合を重ねるごとに今後の行事・環境等「新しい生活様式」を取り入れ子どもにとって主体性や一人ひとりに寄り添う等を織り交ぜながら理解し合える環境になってきた。民営化14年が経ち、建物は50年以上経っているのでメンテナンスをしつつ安全に留意した。

令和2年度 鹿骨おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	子どもの人権を守り、安心して遊べる環境を提供した。子どもにとって「安心基地」に大人がいるという関係を作り。子どもの命を守る役割を果たす為、安全な環境作りに努めた。	年度初頭の研修で保育者としての基本ベースである「子どもの人権」を守ることを再認識しスタートした。それに加え、子どもたちが安心し、受容されているという実感が持てるような言葉かけを保育者が意識して取り組んだ。園としての落ち着き度が上がり、子どもの気持ちに寄り添う保育が深められた。しかし、保育者一人一人の個性が保育に反映されることもあり、まだまだ改善が必要である。
教育	子どもの発達を把握し、自らが遊びに取り組める環境を提供。自然事象等に子どもが気づき、興味関心が持てるようにした。英語、体育遊びは講師一緒に考え、子どもが進んで楽しめる内容を提供した。	新しい生活様式に沿って日々の生活を送る中、今まで行っていた活動が制限されることがあった。講師による英語、体育あそびも緊急事態宣言期間中は中止。様々な経験が例年通りには出来なかったが、子どもたちに経験させたいこと、専科講師が不在でも提供できる遊びを日ごろ取り入れ、保育士が工夫し行った。
子育て支援	保護者が安心して子どもを預けることが出来る関係を構築する努力をした。	新型コロナウイルス感染症防止の為、園内への保護者の立ち入りの制限、登降園時の雑談を短めにするなど対応を変えたが、一部の保護者には理解されるのが難しかった。子どもの様子を伝える1つとして「見える化」を実践したり、的確に伝えることを意識して行ったが、保育者の力量の差があり、ボトムアップの必要性を実感した。子育てひろばを中止した為、地域への貢献度は下がった。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

1年を通して新型コロナウイルス感染症に感染しない、させない為に感染防止策を行い続けた。保育は「新しい生活様式」を基に活動した。子どもたちの健康を維持する為にも手洗い・うがいの徹底、保育室の消毒も毎日行った。「密」を避けることは保育では難しい面もあるため、行事はクラス毎に行い、テーブルに座る人数を減らし実施、午睡の布団配置も間隔を空ける等、出来る努力を行った。毎日の体温、体調管理は子ども、職員のほかに来園者にも協力してもらった。保護者参加の行事である運動会は幼児クラスのみ、発表会は年長クラスのみで行い、その際は体温、体調管理票に記入しての参加とした。園舎に保護者が入らないということもあり、シーツ掛けは職員で行った。緊急時に備えて、一斉連絡メールの協力を保護者をお願いした。法人、園から事態変化に対して即時にお知らせが出来るようになったのは良かったが、協力的でない保護者に対しても掲示等をして漏れがないように配慮した。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

大半の保護者は園、職員に対して感謝し、明るく、優しい対応に満足されている。しかし、保護者参加の行事が減ったこと、職員との雑談が短くなったことに対しては不満に感じている。子ども同士のトラブルの説明に対して不満等、緊急事態に対する温度差を埋めるのは難しいが、日々の声掛けを行い、意見に対して真摯に受け、子どもと保護者の応援者であり続ける姿勢を示していく。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

保育に対しての基本的考えは同じ方向を向いている。職員間の風通しも悪くはない。しかし、仕事に対しての取り組む姿勢、情熱など一人一人違い、受け取り方も違うこともあり苦慮した。最低限のことをやっていれば、誰かがやってくれることが良い職場であると思う職員がいたのは、残念である。人任せにせず、主体的に仕事に取り組む職員育成に力を注ぐ必要があると思った。

5. 1年の総括

新型コロナウイルス感染症の感染防止に力を注いだ一年だった。緊急事態宣言期間中も出席率が高く、保育の必要性のある地域と実感し、多様な保護者に対する対応に努力を要した。保護者理解をすることは、子どもを理解する上でとても重要と考え、今後も多面的に捉えて、丁寧な対応をしていきたい。「新しい生活様式」にも慣れ、日ごろから、新型コロナウイルス感染症防止に努めた結果、他の感染症がほとんどなかったことが幸いだった。日々の積み重ねの大切さを園全体で実感できたことは良かった。保育に関しては、愛着関係の大切さ、子ども主体の保育を全職員が理解し実践していたが、職員の個性のぶつかり合いで支障をきたしたクラスもあり、改善に努めた。このように自己主張をしやすい職員風土を作ってきたが、社会人としての振舞いなど人間力の育成が甘かったと反省した。今後は、風通し良い職場でありながら、職場でのルール、マナーを踏まえた良好な職員関係を築いていけるように、リーダー達の力を借りながら進めていきたい。今まで通り、保育が楽しいと思える職員を一人でも増やし、保育の専門家としてのプライドを持てる保育者を増やすことが出来るように、学びあえる環境を作り続けていきたい。

令和2年度 北葛西おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	子どもの気持ちや行動をしっかり受け止め、個々に合わせた丁寧な関りを通して、自己肯定感を育む。 生活リズムの安定を図り、健康な心と体を育てる。 安心・安全の見直しと各種訓練の実施。	新しい生活様式が日常となり、安心・安全を第一に考え、様々な工夫をし、感染症対策に力を入れた1年であった。保育園生活を見直す機会にもなった。個別配慮が必要な子ども達が増え、より良い保育を考える話し合いを繰り返してきた。一人ひとりの気持ちを受け止め、丁寧に関わることを実践してきたことで、個々の自己肯定感の育ちへと繋がった。今後もきめ細やかに関わっていきたい。
教 育	子ども達が遊び込める環境作りの実施。主体的な遊びや活動を引き出す環境を考え、工夫し、見直しを重ねる。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の項目を毎月振り返り保育に活かす。講師による活動から学び、専門性を深める。	新型コロナウイルス感染症の影響で、行事や遊びのスペース等に制限がかかり、その中で、子ども達にとっての最善を考え取り組んだ。特に乳児クラスは玩具や保育室内の環境設定を見直し、安定と意欲の向上に繋がった。講師による活動は例年に比べ減ったが、運動あそびは縄跳び等、子ども達が主体的に楽しみ、互いに刺激し合う姿が見られていた。
子 育 て 支 援	子育てひろば・保育所体験及び保護者会・保育参観の内容を見直し、よりニーズに合った支援を実施する。 保護者の気持ちに寄り添い、子どもの成長を共に喜び合う。	地域に向けた支援は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、今後新たな取り組み方法の検討が必要となった。乳児クラスの参観は、園内に入らない形で実施。園での様子を見てもらう唯一の時間となり、個人面談は希望に応じて実施。保護者の思いや、悩みを共有し、信頼関係を深めるよい機会となった。今後ブログ等の発信回数を増やす等、状況に合わせた支援と工夫を考える。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

新型コロナウイルス感染症対策として、乳児クラスは保育室前、幼児クラスは玄関での受け入れを実施。幼児用に健康連絡カードを作成し、日々の体調と連絡事項の確認を行った。クラスごとの活動を基本とし、食事・昼寝の場所も密にならないよう配慮した。幼児クラスはアクリル板をテーブルに常設、2歳児は食事の時に手作りの仕切りを使用して飛沫防止に努めた。幼児クラスは、個人ロッカーにクリアファイルを使用してマスク入れを作り、子どもが衛生的に管理できるようにした。
他の感染症に関しては、日頃の対策の効果なのか少ないように感じた。園児の怪我に関しては、5歳女児が跳び箱の練習時に手を滑らせ、前腕骨折をする事故が起きた。職員の補助の位置などを再確認し、反省点を活かし十分に気を付けていく。保護者一斉メールの利用が始まり、緊急時の保護者への連絡が大変スムーズになった。重要な連絡も多いので、これからもしっかりと活用していきたい。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

コロナ禍で散歩や公園遊び減少した中、園庭・屋上など様々な工夫をしながら活動を進めてきたことや、園での生活が子ども達の心身の発達に繋がっているという感謝の声が多かった。お迎え時の伝達内容や子ども同士のトラブル時の職員の対応に関しては、再度見直しをし、より丁寧に行っていきたい。また、保護者同士のマナーに関するご意見も頂き、園から発信し、共有と改善する。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

感染状況に合わせて法人全体で早めに対応方法を考え、実践したことで、しっかりと感染症対策が出来、とても良かったとの意見が多かった。行事や保育環境などをじっくりと見直すことが出来た点も挙げられた。職員の人間関係に対し、改善を求める声が多く、コミュニケーションの面での課題が見られる。一人一人が自分の思いや力を発揮しやすいよう、職場作りの見直しをする。

5. 1年の総括

新たな感染症と向き合い、対策方法を学び、保育園の安全な在り方のために取り組み続けた1年であった。感染状況が都度変化し、不安と隣り合わせの中、笑顔で園児・保護者に接し、また、制限がある生活の中でも、子ども達の為に工夫しながら保育に取り組む職員の姿に、保護者から感謝と励ましの声を頂くことも多かった。保育のやり方や生活の仕方、行事の内容など、柔軟に考え検討し、保育全体の見直しを行ったことは、おひさま保育園全園での標準化へと繋がっている。職員の人間関係についての課題が多い1年であった。考え方の相違や思いの伝え方等、意思の疎通がうまくいかない場面もあった為、職員との個別面談を丁寧に行い、個々の気持ちを受け止め、解決へと努めた。これからも職員一人一人を大切に、居心地の良い職場環境作りを行いたい。

令和2年度 葛西第二おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	子どもが安心して過ごすことが出来る保育。 一人一人をしっかりと受け止め、愛され認められている事を 実感できる関係性を築いた。 食事、清潔、あそび、休息、生きる基礎となる生活を大切に する。	一人一人の発達や課題、家庭環境を的確に把握し、必要とする関わりや支援が行えるようにした。ク ラス単位ではなく園全体で情報を共有し、非常勤職員も含め職員全員で子ども達に関わっていくとい う意識を持ち、保育を進めた。個を大切にする先に、仲間と共に取り組む楽しさを知る事が出来る。子 ども自身そして見守る保育士もその事を実感出来る時間を過ごすことが出来た。
教 育	子どもの主体性を大切にした環境を作り、様々な経験ができ るように取り組んだ。 日々の生活の中に、子どもの学びが有ることを意識し、子ど もが遊び込める計画をし実践に結びつけた。	コロナ禍で行事の見直した事で、毎日をより大切に保育を行うことが出来た。保育の計画、実践、振り 返りを丁寧に行うことで、子ども達の日常は豊かなものとなり、同時に保育士の学びへと繋がった。今 年得た事を今後の保育を考える足掛かりとしたい。
子 育 て 支 援	保育の専門性を活かした保護者支援を行なった。 保育士が、最も身近な子育ての相談相手となれる関係性を 築いた。	コロナ禍、育児不安を訴える保護者もおり丁寧に対応し、後に心強かったとの言葉を頂き、保護者支 援に繋がっている事を実感した。ブログ、掲示等の発信を増やし、保護者と共に子どもの成長を喜び 合えるようにした。子育てひろばが実施出来ず、在宅子育てのご家庭の支援に手が届かず。地域保 育園の役割として何か出来ることがあったのではないかと大きな反省が残る。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

避難訓練は様々な状況を想定し、またコロナ禍、密を避ける工夫をしながら行った。法人総合避難訓練では、備蓄品の収納場所の確認や災害用品の使い方を職員全
員が体験する機会を設け、災害時の対策が他人任せにならないよう意識していった。
新型コロナウイルス感染症予防対策は「新しい生活様式」を基に、3密回避、消毒の徹底、自身の体調管理に努めた。同時に子どもにも「新しい生活様式」を説明し理
解してもらい、手洗いの徹底や給食時の会話軽減を指導をした。感染症予防徹底の成果か、園内でのコロナ感染はなく、毎年流行するインフルエンザや胃腸炎などの
感染症もほとんど見られなかった。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

職員の明るさ、チームワークが感じられる等の評価が得られた。家庭との相互理
解を深める為、ブログや掲示を増やし、おたよりの内容を濃くするなどを実践した
結果、アンケートの中にも高評価として表れていた。コロナ禍での感染症対策へ
の労いやコロナ禍での保育、行事に対し工夫への評価があった反面、行事縮小
に関しての不満もあった。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

ICTにより業務の軽減に繋がっているとの意見が多かった。PCの操作に慣れ作
業効率が上がっている事がうかがえる。一方でまだまだ仕事量が多く時間内では
処理しきれないこともあった。保育やチームワーク面ではとても仕事がしやすく
チームで保育向上に取り組めたようだった。大変な中でもやりがいを感じることで
職員のやる気に結びついていることを嬉しく感じた。コロナ禍、心身ともに大変
だったとの意見もあった。

5. 1年の総括

新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となった。命を守ることを最優先に考え、様々な対策を施し、一步步進んでいく形だった。運営面ではおひさま園長会で
「新しい生活様式」を策定、議論、決定、実践を繰り返し、感染拡大予防に最善を尽くした。コロナ関連の情報発信として一斉メールの活用、HPの掲載は家庭との連絡
手段として有効であった。また、保育の日常を知る機会が減ってしまった保護者へブログ、掲示での発信を増やし、おたよりの内容を濃くしより丁寧に作成する等、安心
して過ごしている様子が保護者に伝わるよう努力をした。コロナをきっかけにおひさま保育園として、保育の根本から行事をどう捉えていくべきか、今後の保育の在り方
方向性にも踏み込み話し合う機会が出来たことはとても大きな前進であった。職員にとっては、感染対策に追われるとても過酷な1年となった一方で、立ち止まり保育を
見直すチャンスとなり、園内では沢山の話し合いが職員主体で行われ、職員の力となり必ず今後の保育に活かされていくに違いない。

令和2年度 春江おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	安心できる環境の下、自信をもって生活する姿を見守る。異年齢と関わり、強さや弱さを知ることから、思いやりを育んでいく。活動を通じた体験から、命の大切さや協力することの意味を知る。	コロナウイルス感染症の為、新年度例年通りのスタートが全くできず、登園していた子ども達の気持ちを受け止め、楽しく過ごせるよう努めた。コロナウイルス感染症防止のため、異年齢の交流はできなかったが、戸外や物づくり等に工夫し、目を向け、他クラスを意識できるようにしていった。畑の野菜作りでは、好きな野菜を選び、生長を観察し、給食で食し味わった。
教育	生活体験の中で、子どもの自身の気づきを大切にし、遊びを展開していく。 自ら考え、行動しようとする意欲を育んでいく。	幼児は他クラスを見て意識することで、自分より大きい年齢の友達への憧れや、遊びの姿に楽しさを感じ真似をして友だち同士で挑戦する姿があった。子ども自身の気づきから遊びが発展し、広がった。特に縄跳びや竹馬、鉄棒等については、子ども達自らがやりたいという思いから取り組み、遊びが広がっていき、年齢毎の姿があり、子ども同士の関わりの変化も見られた。
子育て支援	絵本の貸し出しを実施。絵本や物語に親しみ、心を通わせる機会を作る。登降園時の保護者とのやり取りを大切に、子育ての喜びを共有していく。 様々な媒体を通して日々の生活の様子を発信していく。	コロナウイルス感染のため、保護者の園舎内への出入りを最小限にしたことから、絵本の貸し出しも中止をした。登降園時の保護者との会話も減ることになったが、ブログや写真を媒体として、子ども達の日常の姿や園の様子を発信していくことに努め、保護者から様子が分かって嬉しいという意見も頂き、継続していきたい。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

消毒液の設置については、園庭門、また園舎内では各クラス、階段等の安全な箇所を選び、使用しやすいように設置した。保護者と子どもの検温を実施し、毎朝確認、受け入れをした。また、保護者の園舎内に入出入りを制限し、乳児クラスの受け入れ・引き渡しをテラスからする等、感染防止に努めた。緩和措置をした後も、子ども達は入室後、直ぐに手洗いをすることも習慣になり、定着している。手拭きタオルをやめて園児、職員共にペーパータオルの使用に切り替えた。食事について配膳時は、必ずエンボス手袋を使用し、テーブルにパネルを置き、職員は子どもとは別室で食べるか、無理な時は離れて食べる等、感染防止の対応策を行った。日常の保育について異年齢の交流はせず、集会等も中止しクラス単位の活動に変更し、密を避ける様注意し、生活や活動を行った。保育室や子ども達の利用する玩具や遊具については日々消毒を行い、空気清浄機を常に使用すると共に換気をして感染防止に取り組んだ。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

「保育園の活動が子どもにとって合っているか」の項目については100%、「興味関心に繋がっている等」に関しても高い評価が得られた。しかし、保護者との関わりについて日々の子どもの姿や、トラブルの際の対応について改善を要とする。全職員で保護者への対応や、日々の様子の伝え方を工夫し、子どもの姿の発信にも一層努めていきたい。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

保育園という組織の一員としての意識や思いよりも、処遇面の評価ばかりが上がり、とても残念な結果だった。園として自分達が保育の中で何を目指し、何を育んでいきたいかを再度話し合い、職員の考えを反映していきたい。一人一人がクラスを運営していく意識を持ち、意見を出し合い考えていける組織を目指したい。

5. 1年の総括

子ども達の体作りを目的に体操を取り入れているが、少しずつ子ども達の姿や遊び方が変わっているように思える。体を動かすことを面倒がらず、戸外遊びで活発な姿が目立ち、固定遊具に興味を持つ子が増えた。子ども達自身が年長組の姿に憧れて取り組む事が多く、遊びに変化が見られていた。大縄跳びでは子ども達同士で回し方を工夫したり、跳べるようアドバイスをしたりする姿があった。ゲーム感覚でクラス対抗をするまでに発展していった。竹馬についても同様に、自主的な遊びが子ども達にとって貴重な体験と自信に繋がる機会になると実感できた。コロナウイルス感染症防止の為、全ての行事が中止または縮小になったこともあり、月1回園内研修を行い、職員間で学ぶ機会を設けたが、職員主体になることが難しく、会議の在り方に苦慮した。コミュニケーションの取り方、接遇については、他業種の経験を持つ非常勤職員が講師になり、学ぶ機会を設ける等工夫を実施。同年齢のクラス同士の関わりが増えて、子ども達の成長や職員間の情報共有も増えていたが、利用者アンケートからの評価は変わらずだった。職員全体で行った、自己評価の振り返りを今後の保育に繋げていきたいと思う。

令和2年度 東小岩おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	乳児期から幼児期における摂食機能の発達を支援し、子どもの食べる力を育てる。豊かで健康な心と身体を育てる為、生活の中で子どもが習得する言葉を大切に、愛着関係の形成に繋げていく。	日々の食事において咀嚼力などの個人差に応じて対応した。咀嚼力の弱い児などは引続き、家庭と連携し、子どもの食べる力を今後も育んでいきたい。乳幼児期の言葉の習得は良くも悪くも様々な影響が出るため、保育の中での言葉の獲得を大切にするよう心掛けた。また、感染症対策からマスク越しでの愛着関係構築となるため、より言葉かけの大切さを会議や園内研修で学び、深め、実践した。
教育	生活や遊びの中で育つ子どもの主体性を育めるよう子どもの話をよく聞き、気持ちを理解し、受容し、時には一緒に考え、自己決定力を引き出す事で子ども達が力を発揮できるようにする。	生活や遊びの中で子ども達の発見・やりたい・やってみたいという気持ちを捉え、どのようにしたらそれが実現できるかを子ども達同志が考え、保育士と一緒に考え、保育士が環境を整えるなど、年齢や発達に応じて対応した。その中で、交わりあった10の姿を経験することや自己決定力の実現もできた。今後も子どもたちの主体性を育めるよう子ども達の目線に立って捉えていくことを大切にしていきたい。
子育て支援	保護者の思いや価値観を知り、子どもの成長を共有、喜び合う事で子どもの育ちに関する方向性を一緒に見つけ、専門家としてアドバイス出来るようにしていく。地域の子育て支援に取り組み、孤立した子育てにならないようサポートしていく。	自粛期間中はホームページ、手紙、電話を活用し、工夫しながら子育て支援に取り組んだ。解除後も必要に応じて個別で対応することを心掛けた。子育てひろばも開催できなかったため、地域の孤立した子育て家庭に何かできないかと検討するのみとなった。感染症対策は今後も隣合わせになる可能性が高いため、今後はオンラインシステムなども含め、検討していくことが課題と感じた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

4月緊急事態宣言発令時は職員の健康管理、マスク着用、園内清掃、消毒、換気を十分に行い、特に食事の際は密にならないよう、ソーシャルディスタンス・パネル版の使用等に努めた。また、登園時の園児の検温・体調確認に努め、登降園時、感染リスクの高い保護者の入室は行わなかった。緊急事態宣言後は新しい生活様式に基づき保育を進め、保護者の入室を制限した。また、都内、区内の感染者情報発信に努め、近隣で感染者が出た場合には一斉メールなどで情報発信も行った。また保護者にPCR検査実施時などは園に連絡を入れてもらうよう努めた。

いままでの日常が園でも家庭でも変化し、緊急事態宣言時に流れる放送を怖がる児もいたため、何よりも子ども達の心のケアに努めた。職員間で日常の保育及び行事の進め方についても子ども達にとってを常に考え話し合えたことで、いままでの保育の見直しをする機会にもなった。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

感染症対策により、行事・散歩・地域交流の変更・中止が残念だったという意見と感染症対策の中、工夫して進めてもらえてよかったという意見があった。感染症対策のための保護者入室制限により、登降園時担任との関わりが減少した部分もあるため、今後の改善課題となる。感染症対策で先生達も大変な中だと思いが、職員が明るい、園の雰囲気がよいという意見をいただき今後の励みとなった。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員間で話し合い休憩時間を工夫できた。固定・時短など働き方の多様性により、朝の時間帯や当番数に上限が出るため、多様性の働き方を大切にしながらも、改善策を考えていく必要がある。新任保育士など若手の職員が見守られながら緊張感の中にも安心して係に取り組めるようなバックアップを今後も整えていきたい。職員間が仲がよいなどの意見もあり、雰囲気作りは今後も大切にしていきたい。

5. 1年の総括

年度当初から新型コロナ感染症対策による緊急事態宣言・新しい生活様式の作成及びそれに基づく保育体制の構築など、初めてのことが多く、戸惑う部分もあったが、冷静に状況を捉え、最善の対策ができるよう職員間でよく話し合い、連携をとることが出来た。感染症対策の観点から日々の生活、遊びや行事の見直しなどを行ったが、子どもたちにとってを考えた際に、感染症対策だけに捉われず、今までの保育や行事の在り方も見直すことが出来た。食事の際、乳児クラスはもとも個々に合わせて小グループなどで時間差をつけていたが、幼児においても個々の生活リズムが違うため、小グループで時間差をつけることで子ども達にとってリズムを整えるきっかけともなった。夏祭りでは、保育中の行事として今年度は子ども達のみで行ったが、取り組みも含め、子ども達同士が関わり保育として楽しさを共有出来る時間となり、今後も今年度の形で行うことを検討し、ドキュメンテーション等を活用し、保護者が何らかの形で関り、子ども達の成長を共有取り組みを検討したい。日々の保育に加え、感染症対策に追われた1年だったが、職員間でよく話し合えたことで、子どもを中心とした会話が更に増え、緊張感の中にも充実したものが見つけられた1年だった。

令和2年度 西篠崎おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	子ども一人一人の気持ちを受け止めて、個人を大切にする保育を行う。また、自己肯定感を高め、自分の生理的欲求を満たし、満足できるようにする。子どもが安心安全に過ごせる環境を作る為、保育室の環境設定を見直す。	各クラス、環境設定を見直し、積極的な玩具の入れ替え等を実施した。特に1・2歳児クラスでは、棚の購入を行った結果、コーナー遊びにおいても自分で片付けを行ったり、生活の場面でも身の回りの事を少しずつ自分で行ったりするようになり、自主性が育まれた。
教育	子どもが自分で考え、自分のしたい事や思いを大切に、その環境を整える。 子どもの学ぼうとする力を育てる。散歩や戸外遊びを通して自然と触れ合い、実体験を広げていく。	緊急事態宣言中は、散歩も縮小したが、通常時は自然環境豊かな地域の利点を活かし、散歩や戸外遊びを多く取り入れた。その結果、自然や動植物に興味を持つ事ができた。また、戸外遊びにより全身を使って意欲的に遊ぶ事もできるようになり、運動機能が向上した。
子育て支援	保育参観や参加などを通して保育園を身近に感じてもらい、保護者に保育園の園児の生活に興味をもってもらう。 子育てひろばや保育所体験を継続して実施し、参加して頂く事により地域の保育施設としての役割を果たす。	コロナ禍の中、限定的な保育参観しかできなかった為、クラスだよりの発行回数を増やし、写真を多く使ったおたよりを出し、保育園の様子を知っていただく努力した。子育てひろばや保育所体験は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、実施しなかった。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

コロナ禍で、感染対策を行いながらの保育園運営を行った。消毒や換気・飛沫防止対策を中心に全職員で、感染予防を行った。また、保護者や職員に適宜、感染症等情報提供を行い、安全確保に努めた。日常保育や行事は、基本的にクラス単位で活動の為、園庭遊びの時間も限られてしまっており、その対策として遊具等を追加購入し、室内での保育活動の種類を増やし、工夫した。運動会は、幼児クラスのみ実施、発表会についても年長児クラスのみ縮小して実施した。
今後もこの状況は続いていくので、職員と話し合いながら進めていく。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

全体的に満足度等の数値は向上している。ブログやお手紙で様子を伝える事にも多くの保護者の方からよい意見をいただいております、今後も続けていく。また、緊急事態宣言宣言中は、散歩を縮小したり、クラスごとの活動をしている為、園庭遊びの時間が限られていた為、外あそびの時間が少ない等の意見は、寄せられた。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員全員で、子ども達が安心して楽しく保育園生活を送れるように努力をしております、職員評価からも同様の意見があがった。職員間の連携にも、まだまだ課題があるが、向上しているところがみられる。また、休暇取得の意識も向上し、環境がよくなったとの感想があったので、継続して努力していく。

5. 1年の総括

新型コロナウイルス感染症について、正体がわからず、誰もが経験したことのない困難な年に直面した。保育園でも、矢継ぎ早に感染対策を講じる日々となり、特に春先は手探りで進め、職員と一つずつ確認しながらの運営となった。
4・5月は、自粛期間もあり、登園数が少なく、ほとんどの園児が6月からスタートするという事態となった。保育室内への保護者の立ち入りや保護者会を実施しなかった等の為、日常の子どもの様子・保育園の事・職員の事などを伝える事や発信する事が難しい年となった。
また、行事や異年齢児交流や保護者同士のコミュニティなど、失ったものや違う形を変えたものも多くあったが、そのような状況の中、保育園と保護者が協力して運営した。

令和2年度 西小岩おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	安全面に配慮し、子どもの生活の流れや遊びの展開に則した環境設定を実施。 年齢や成長に合った遊具を整え、遊びの展開や友だち同士の関りが持てるように進めた。	特に乳児クラスにおいて1日の活動内容による動線に視点を置き、遊びや食事場所についての協議を重ね、配置を変更した。また、登降園時、保護者の関わり方法(荷物の引き渡し等)を説明しながら行い、理解が得られたことで、スムーズに移行することができた。また、古くなった遊具を無理に使っているケースが多く、整理や入れ替えを行うと共に、子どもが使いやすい配置を設定した。
教育	経験の積み重ねが教育内容へ繋がるよう、保育の進め方に工夫を行う。また、身体能力向上においては、年間指導計画を講師と調整を図り実施した。	毎年行っていた体育器具の使い方や補助方法の研修を行うことができなかったが、実施内容と補助方法についての確認を行ってから実践に入ることにより、統一した対応を図ることができた。しかし、年間実施回数が減ってしまったことにより、来年度に向けてのカリキュラムを変更する必要がある、年度末に講師を交えた検討会議を実施し、調整を図った。
子育て支援	地域子育て支援で行っている、子育てひろばの開催について、子育て情報の発信を主体的に行う。 保護者間のコミュニケーション及び、保育園との関係が深められるよう、アプローチを行う。	子育てひろばの開催自粛により活動を控えたが、子育てだよりを発行し、園外掲示板にて掲載を継続した。どの程度の利用があったのか確認が取れないが、行動自粛の中、閉鎖的な環境においては今後も更なる情報開示を行う必要性を強く感じた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

おひさま保育園の「新しい生活様式」において、新型コロナウイルス感染症による感染状況や、行政の動向を見ながら対応を講じてきたが、保護者の危機意識の低下は時間の経過と共に強く感じられるようになった。保護者の就労先に於いて陽性者が確認され濃厚接触者となりPCR検査の対象となるケースが増えたが、陽性判定はなかった。しかし、今後は検査数や陽性者が出ることは確実となるため、保護者及び職員に対し、随時注意喚起を行う。
保育においては、クラス別保育を主体に進めたが、行事も含め集団活動での経験が深められず、表現する喜びを体験できる環境が少なくなってしまったことは残念であったが、それまでの取り組みや過程を大切にし、子ども達に伝えてきた。今後も、安全対策や感染予防対策を図りながら、子ども達の喜びや楽しさが積み重ねられるよう努めていく。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

利用者アンケートの評価結果は満足度は98.6%と高評価を得たが、気付けなかった点や再認識が必要な内容を伺うことができた。子どもとの関りや職員の接遇・態度・安全対策については評価が継続できるよう取り組んでいく。今後の課題として、保育園での様子についての伝達や、個人面談で伝えきれない発達の様子など、保護者とのコミュニケーションを図りながら関係性を築き進めていく。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員間の関係性は良好であり、経営層との関りも問題点は感じられていないが、作業内容の偏りや、意見が出しやすい雰囲気づくりでの取り組みが必要である。法人や保育園が求める方向性や内容を職員へ伝え、全職員が共通理解を持って取り組めるようにする。

5. 1年の総括

今年度は事業計画の実行が難しく、限られた状況の中で何ができるのか、何を大切に取るべきなのかを判断することに苦慮した。生活や活動範囲の制限の中で子どもの育ちや集団活動でなければ経験できない、体験や気付きが得られる内容検討を深めるべきであったと感じている。また、年間カリキュラムの内容と実施状況に差異が生じてきたため、保育期間ごとに調整会議を実施、状況に則した無理のない範囲で保育展開を進めてきた。
職員においては年齢別での配置基準を基本とし、非常勤職員を固定型と流動型に分け配置を行った。決められた配置人数での保育の展開、子どもの安全面を重視した対応、保護者とのコミュニケーションや相互理解が深められるよう努めてきたが、課題は残っていると感じている。目を向けるべきは、子どもであり保護者であり、相手の対場や状況を受け止め、理解したうえで必要な助言や援助が行えるよう、職員が一丸となって話し合い、それぞれが保育能力を高めていくことが今後の課題である。

令和2年度 松江おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことが出来るように保育士と信頼関係を基に、主体的な活動を支え、自己肯定感や人との関りを通して育めるようにした。また、安定して過ごせるよう環境を整え、生活リズムを作った。	安定して子ども達が生活できるよう、登園時に保護者から家での様子を聞き、一人一人の生活リズムを把握、対応することができた。日々の活動は、取り組む内容を子どもに分かりやすく手順や方法を示すなど、達成感を味わう事ができるよう援助した。保育士も共に楽しさを共感し、子どもとの信頼関係が深まり、安心感や満足感を味わう事で行動に意欲がみられた。
教育	友だちと様々な体験を重ねる中、良い悪いを判断し、自分の行動を振り返り、共感したり、相手の立場に立って行動できるよう、進めた。また、自分の気持ちを調節し、友だちと折り合いを付けながら決まり事を作り、守ったりするようにした。	日々の活動内容を子どもの自発性や探索意欲が高まるような環境を設定、自らが関わろうとする姿を保育士は見守り、共感しながら、励ましたり、必要な助言を行った。友だちとの関りで、お互いの気持ちがぶつかり合う場面などは保育士が仲介し納得いくまで話し解決するよう対応した。良いも悪いも、一つ一つ丁寧に関わってきたことで自分の気持ちに折り合いを付けれるように成長が感じられた。
子育て支援	保護者とのコミュニケーションは、送迎時の対話や連絡帳、電話など、様々な機会に行った。子どもや家庭の実態や保護者の心情を把握し、援助が必要な場合には対応し解決に至ることが出来るようにした。	送迎時での保護者との関りの際、短い時間でも会話をし、不安や悩みに寄り添うことで子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共感しあえた。近隣施設との関りは感染症の関係で出来なかったが掲示板やブログ等で情報提供を行った。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

プール実施前には、研修を実施し、マニュアル・安全事項の確認を行い、同時期にAED研修を実施し安全対策に努めた。夏の暑さが厳しく、熱中症対策も十分に注意し対応した。そのため大きな事故、怪我もなく夏の遊びを楽しむことが出来た。エビペン預かりの園児が在籍していたため、エビペン研修を実施、アナフィラキシーショックを起こした際の速やかな行動に繋がるよう丁寧に確認した。感染症対策の消毒、換気、手洗い等は細目に行い、例年より感染症が少なかった。また、嘔吐処理対応でも園内研修を実施、必要物品や一連の処理の流れを実際に行い、確認したこともあり、実際に嘔吐があった際の処理が迅速に対応出来た。避難訓練では、訓練後の反省を大事に、様々な想定を考え、対応できるようにした。ヒヤリハットは、情報を共有し、振り返る事で事故を未然に防げるよう努めた。コロナ禍で様々な活動に工夫が必要となった。クラス単位で過ごす中、年長児による誕生日のお友だち紹介を行い、全園児で喜びを共有する等、ほっこりする時間が持て、子ども達が喜んでいた。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

「先生が笑顔で明るいイメージ。安心して預けられる。」と信頼を寄せる声を頂き嬉しく思う。今後も引き続き丁寧な対応を心掛けていく。また、「室内ばかりで体を動かす活動が少なく体力がつかない。」という声が上がったが、コロナ禍の中でできる限りリズム・体操・巧技台等、各クラス取り入れてきたが、更に工夫が必要と感じた。改善点として伝達ミスの無いよう努めたい。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

何か課題がある時は、リーダー層で意見を交わし取り組み、全体に周知していく事でより保育の充実を図れ、職員間の関りが充実している。コロナ禍で思うように会議が進まなかったこともあり、更に子どもに対しての情報共有をもっと密にしていく。休憩時間や書類作業の時間がもう少し取れるよう工夫していく必要を感じる。

5. 1年の総括

コロナ禍で行事や活動が変更や中止になり、対応に迫られたが、都度子ども達や保護者に丁寧に対応した。送迎時に保護者と会話を重ねたが、個人面談や保育参観、保護者会が中止となり、思うように情報を共有できずコミュニケーション不足を感じた。引き続き、手紙やブログ等でも子ども達の様子を発信し、保護者に安心感を持ってもらえるよう努めていきたい。講師による取り組みの和太鼓・英語・体操も中止となり、今まで教わってきたことを保育士が活動に取り入れ定期的に行った。室内遊びが多い日が続く、折り紙・塗り絵・粘土・ブロック等、子ども達が作る作品に変化がみられ、高度な作品も作れるようになった。クラス単位でじっくりと自由遊びを楽しむ中、集中力がついているのを感じている。今後も子ども達の遊びの発想が豊かになるよう環境を整えたい。保育室や遊具の消毒は毎日の日課になっているが、感染症による対応に追われることもあるが、連携を取り乗り切るようにしたい。日々の報告会議は行っていたが、子どもに関してや保育に関しての会議が持てず、情報の共有や保育力の向上が思うように進まなかったこともあり、次年度は取り組めるよう努めていきたい。職員間の雰囲気は良いので引き続き連携を強化していきたい。

令和2年度 松本おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	一人一人の遊ぶ、食べる、休息するリズムを家庭と連携しながら整え大切にする。 保育士の関わりが子どもにとってふさわしく豊かで適切であるかを再考する。	生活リズムを整え、健康的な生活を送るよう、特に保育園での生活のリズムの見通しが付くようにする事と、各園児の個人差にも目を向けてた。感染症対策として少人数を心がけ保育を行った事は、子どもの小さな変化に気付き、声に耳を傾けることに繋がり発見も多かった。 安定した子どもの様子を家庭に伝え、保護者も実感し信頼関係も構築された。
教育	自然や社会事象に触れる豊かな経験を重ねる。 園内の身近な環境がそれぞれの子どもにとってふさわしいか再考する。成長に合わせたふれあい遊び、わらべうた、リズムあそびを取り入れる。	自然環境に目を向け季節の植物、栽培物により様々な体験ができた。オリンピックによる活動の広がり、園外施設の利用については実施に至らず残念だった。 玩具、園内環境については繰り返し見直し、身近な環境が子どもの生活によりよいものになるよう心掛けた。少しずつふれあい遊びやわらべ歌、リズム遊びを取り入れ、心身の発達の一助になった。
子育て支援	朝夕のコミュニケーションを基本に保護者の積極的な保育参加を促す。外国籍、発達上の課題のある子ども、支援を必要とする家庭等、適切な対応をする。子育てひろばではプログラムの充実を図る。	朝夕のコミュニケーションは、写真掲示や、メモ、ブログの更新などで少しでも会話に代わるよう積極的な発信を心がけた。個人差や各家庭の事情などにも最大限配慮し、関係機関との連携もした。子育てひろばは行う事が出来なかったが、入園希望の方には丁寧に説明し、ブログで園内の紹介をしたり、時には隣接する公園から園内の事を説明し、子育ての相談等、話をする事でカバーした。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

新しい生活様式を提案、安全で衛生的な環境を整えて家庭との連携を心がけた。保育内容、手洗い消毒、給食、送迎、午睡、保育時間の対応等、会議でしっかり話し合い明文化し、対応に迷う事の無いよう心掛け共有した。園児の体調の変化に気付けるよう健康カードの記入や視診を欠かさずに行い、体調不良により検査を受けた保護者、家庭内感染を疑われた園児やエッセンシャルワーカーへの配慮を行った。一斉メールや計画的なブログの更新、配布物等、メッセージや手紙のやり取りを通して、自粛期間中も保護者が孤立、不安にならないように心がけた。また職員自身も検温、アクリル板の使用、食事の机や場所を別にする等管理をした。夏場の水遊びに対しては特に着替え、水の消毒等ルールを作り実施し、日よけの為テントを活用して水遊びを中心に行うなど、ほか行事についても園長会の話し合いをもとに工夫をし開催した。手洗い消毒の効果もあって、感染症の流行が殆ど無く済んだこと、事故についても1歳児の肘内障による受診1件にとどまり、大きな事故等がなかった。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

衛生的な環境、園での活動が子どもの心身の発達に役立っているか、給食おやつは配慮と工夫の3点に高い評価があった。反対に送迎時の会話や対応、第三者委員の周知については数字が伸びなかった。これらは、園内研修を通し対応を考え、年度末の保護者への資料にまとめ、フィードバックした。今回わずかではあるが回収率が増え、保護者の声が聞けた点が良かった。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

前年度の取り組みに加えて、環境整備に力を入れた事、職員同士の人間関係や会議による話し合いで、保育について考え合えた事を職員で良くとらえた反面、保育体制が厳しい事による人員配置の希望と保護者への伝達漏れや、職員同士の報告など課題も見つかった。いきいきとやりがいを持って仕事ができる様管理者としてより工夫していきたい。

5. 1年の総括

感染症対策を第一に安全で快適な環境のもと、保護者、園児の心をしっかり受け止めながら保育を行った。同時に園内の空調の整備、老朽化による機器の交換、遊具の点検、衛生製品の購入を計画的に行った。
状況に合わせ、子ども主体の多様な遊びや生活を職員全体で考えた。行事の開催方法や内容について話し合う事、少人数で生活し丁寧に関わる方法を考えた事、日々の子どもの様子を話しあえた事は保育の質の向上を図る上で重要だった様に思う。コロナ禍だからこそ保護者との繋がりを重視してコミュニケーションを大切に実践を重ねた。1年の子ども達の様子、活動、成長については年度末の保護者会に代えて資料を作成し配布することで、保護者も喜び、職員自身も手ごたえを感じられた。組織目標の感動する気持ちを持ち、共感する気持ちがその資料に詰まっていたように思う。開園10年で培った保育士同士の明るく助け合う風土はかえずに、社会を支えるインフラであることを励みにしてこれからも保育にあたっていきたい。

令和2年度 清新おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	子どもに寄り添い、生理的欲求が満たされ、安全安心な環境を整える。遊びの中から危険回避能力を鍛え、ケガをしない身体づくり。基本的な生活習慣を習得し、自分の事は自分で行えるよう進めていく。様々な家庭環境や発達を理解し、丁寧に関わる。	職員が緊急事態宣言中に学んだ事を研修報告として全職員で共有周知し、子ども達を中心にした保育や環境を考える機会を作ることができたが、職員の意識統一ができなかった。日々の保育の流れを統一することで、子どもたちへの言葉かけや関りが同じになり、進んで様々な活動を行う事ができた。身体を使った遊びを少人数で行う事で、一人一人の発達に沿った活動を取り入れることができた。
教育	子どものやりたい気持ちを受け、活動を考え、保育を進めた。身体を使った遊びを戸外だけではなく、様々な場所で工夫して行った。幼児クラスは、造形遊びを取り入れ、講師との連携を深め、日々の保育の中で継続して行えるようにした。	子ども達からの提案で活動を考える機会を作り、乳児クラスでは手作りおもちゃや季節に合わせた遊びを提案することができた。造形遊びを行う事で行事への取り組みができ、繋がりを持って保育を進めることができた。今後は準備や片づけまでも一緒に行うようにしたい。運動あそびは、少人数で保育を行う事で一人一人に目が届き、苦手な事や得意な事を考慮した活動を考えるきっかけとなった。専門講師の活動を行う機会が少なく日々の保育への取り組みが不十分だった。
子育て支援	保護者との信頼関係を深め、悩みに共感した支援を行う。地域との連携を図り、未就園児に対して継続的な活動支援を行う。様々な場面で、子どもの成長を共に喜び合い、保護者に対して理解を深める。	保護者と成長を共感する機会が少なく、寄り添う活動ができなかった。状況を考え保護者への支援の方法を考える必要があると感じた。また、地域子育て家庭への支援が全くできなかったり、連携もできない1年だった。リモートなどで出来ることを今後は考えて行っていく必要があると感じた。保護者の参加する行事が少なくなったこともあり、子どもたちの小さな成長に共感できるように心がけた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

避難訓練は密にならないように工夫し、様々な想定で訓練をおこなった。感染症については、手洗い、消毒を細目に行い、感染症の流行がなかった。コロナウイルス感染症の流行により、各クラス少人数で活動をし、特に食事については、テーブルに座る人数を少なくし、食事をするようにした。また、おもちゃの消毒や手洗いを細目に行うようにした。保護者、子ども、職員の毎朝の検温の記入。外部から入室の際には健康、質問票に記入してもらうようにした。職員の感染症への意識を高めるように日々体調管理には気を付けた。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

「保育園の活動は子どもたちの心身の発達に役立っているか」の質問に全員の方から「はい」の答えを頂いた。職員が子ども達の事を思い考え、保育を進めた結果となった。コロナ禍で、保護者と話す機会が少なかった為、子どもの様子を聞きたいとの意見があり、ブログを活用し、日々の短い伝達で情報が共有できるように工夫した。苦情相談窓口を知らない人が多く、保護者会で説明をした。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員が少しずつ働きやすさを感じている。行事の見直しや、やりたい事ができる環境が整ってきてる一方、職員数が少ない事で丁寧な関りが難しく感じている。消毒などの作業も増えているため、互いに思いやりの気持ちをもち、同じ気持ちになることで、保育を楽しめたりやりがいを感じるようになっていくが、更に職員同士の関りを整えていきたい。

5. 1年の総括

コロナウイルス感染症で、新しい生活様式を取り入れながらの1年となった、前半は行事や保育環境の見直し、職員研修を取り入れて学ぶ機会を多く持てた。後半には、研修などもできなくなってしまったことを反省している。職員同士の思いやりの気持ちを育てられず、どうしても自分のクラスの事ばかりを考えてしまう傾向が強い。子どもたちが考えて遊ぶ、学ぶことの大切さを少しずつ感じてもらうこと。乳児から幼児への保育の統一を進めていくことで繋がりがながら保育は進めていくことを、感じてもらう事が大切だと思う。職員がやりたい気持ちやアイデアをだし、進めていくことで保育の楽しさや、やりがいを感じてもらえた1年だった。幼児クラスになっても少人数で保育をすることで、一人一人をより丁寧にみることができ、気づくことが多かった。今年度から始めた造形遊びでは、子どもたちが楽しんで取り組み、行事の作り物を自分たちで考えて作ることができたことで、達成感を感じたり保護者からも好評いただいた。このことを踏まえて、職員が、日々の繋がりがから行事を行っていくことを実感できたのではないかなと思う。当たり前に出ていたことができなくなって、意見を出し合える環境が少し整ったのではないかなと思う。

令和2年度 小松川おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	手洗い、うがい等基本的な生活習慣を身につけた。 自粛期間中、保護者・子どもとのコミュニケーションを図る。 感染症予防に留意しながら、室内外で身体を動かす事が出来るように心掛けた。	登園後入室の際手を洗う等、感染症予防を意識した習慣が身に付いた。入園・進級当初、感染症拡大による欠席(自粛)家庭との関わりが課題となった。電話で子どもの様子を伺ったり、手紙やメール、ブログを使用して連絡をした。緊急時の連絡方法について改めて考える機会となった。
教 育	自然環境を生かし、意識的に戸外活動を取り入れる。 行事の見直しを行う。	開放感を感じ伸び伸びと過ごせるよう、各クラスの体制や園庭の使用等工夫し戸外遊びを取り入れた。感染予防の為、行事を中止・縮小した事により、日々の保育により目を向けるようになった。子どもたちの意欲を大切に考え、職員間で話し合う機会が増えた。結果、行事も子どもたちのペースで取り組む事が出来た。今後も保育士目線ではなく、子ども目線で活動を考えたい。
子 育 て 支 援	感染症予防の為、子育てひろば・保育所体験の中止。 自粛期間中の家庭に連絡し、コミュニケーションを図る。	例年に比べ地域との関わりは少なかったが、入園希望者等には電話で丁寧に説明し質問に答えるよう配慮した。自粛中に子どもと過ごす時間が増え、普段と違う環境にストレスを感じる保護者の方も多かったようだ。遊びの提案や保護者の方の気持ちを受け止める等、支援方法を模索する。保護者の方の気持ちに沿った支援の仕方を考える必要性を感じた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

手洗い・うがい・換気・消毒等に配慮した結果、感染症に罹る子は少数であった。集団生活の中での感染症防止の取り組みをどのようにしたら良いか悩んだ。クラス単位での活動を意識し、感染予防と安全性のバランス(夏場のマスク着用をどうするか等)を考慮した。アルコール消毒液や次亜塩素酸消毒の使い分けや保管場所等、職員間で確認共有し、安全に使用出来るように心掛けた。密を避ける為登降園の方法も状況に合わせ変更した。
散歩を控えていた為、再開する際には散歩時の体制や連絡方法を再確認し、安全面に配慮した。
事故に関しては、転倒の他、気持ちが高揚して怪我に繋がったケースがあった。ヒヤリハットでは友達との関わりに於いて、個々の行動を予測をして見守る必要を感じた。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

全体的には保育園の取り組みに対し、ご理解を頂いている意見が多く、職員の地道な努力を評価して頂いたと思われる。一方で、登降園時の保護者とのコミュニケーションが不足していたように感じる。感染症対策で行事等も縮小していたので、例年に比べ保護者の方が園の様子を見る機会が減った為、園での子どもたちの活動の様子、個々の姿を意識的に伝えていく必要を感じた。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

園内研修の題材が職員の提案を取り入れていた為、身近なもので学びに繋がったように感じた。改善したい点等、記載するだけでなく、どのようにしたら良いか考える職員が少しずつ増えた。
次年度は自己評価を意識して、一つひとつの事を自分の事として考え、職員で意見を交わしながらより良い園づくりを目指したい。

5. 1年の総括

入園・進級当初が自粛期間となり、新入園児は6月がら準備保育を開始する方も多かった。緩やかな年度のスタート、行事の中止・短縮が改めて日常の保育に目を向けるきっかけとなった。子どもたちが活動をする上で大切なものは何か、子どもの興味や育ちを考え環境設定を行った。この取り組みを積み重ねて行くことが出来るように、次年度は園の自己評価について検討したい。又、このような状況は次年度も続く予想されることもあり、保護者の方に保育園の取り組みが見えるように写真の掲示やコミュニケーションを図っていききたい。外部の研修に参加する機会が少なくなった一方、職員の意見を取り入れながら園内研修を実施した。実践的な事や身近な事で取り組み易かったように感じる。次年度も職員の意見を取り入れながら行っていききたい。感染症予防の観点から、異年齢児での活動を中止した。異年齢の交流方法又は他クラスを意識出来るような機会を持つ事が出来ないか検討していききたい。
年々外国籍の方が増えてきているように感じる。保護者の方の立場で、丁寧な説明を心掛けていききたい。

令和2年度 南葛西おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	感染症拡大予防に努め、安全安心な環境作りとして衛生面に配慮し手洗い・消毒・3密を防ぐ等、配慮をしながら基本的な生活習慣の見直しを行った。またこれまでとは異なる生活の中、受容的な関わりを心掛け、心の安定に繋がった。	感染症拡大予防の為、安心できる環境作りとしてマニュアル作成を行い、危機管理意識に努めた。環境の変化に不安を感じる子どもの心に目を向け、生活に沿って見直しをしたことで、新たな改善策等を共通認識する事が出来、感染症拡大予防と繋がった。日々の昼礼にて一人一人を受容する大切さや、成長を伝えあった事が、更なる受容的な関わりに繋がった。
教育	園庭での戸外遊びの時間の確保の心掛け、身体を動かして遊ぶ環境作りに心掛けた。また、子ども達の発想や興味を大切にし、子ども同士の関わりが持てる遊びの展開に留意した。	散歩の中止等により室内での遊び時間が増えた。一人一人に目を向け、自由な発想での制作遊びを積極的に取り入れ、子ども達の発想や興味を認めながら主体的に遊べる環境作りに心掛けた。園児同士が互いの作品を認め合い関わりながら積極的に遊びに取り組む姿が見られた。また、身体を動かす遊びを意識し、園庭での戸外遊びの機会を多く取り入れ、子ども達の心の安定に繋がった。
子育て支援	新型コロナウイルス感染症により子育てひろばが中止となった。登園自粛により家庭へ連絡を定期的に行い、都度相談を受け入れた。	登園自粛により家での生活が多い中、子育てに不安や疑問を感じる保護者が多く、定期的に連絡を入れ、子どもの発達について相談、受け入れをした。また、ホームページ等で、家庭での遊びのヒントとして紹介を行った。保護者からも安心感に繋がったと話があった。子育てひろばが中止となり、地域との繋がりが課題となった。今後は地域への情報発信の方法検討していきたい。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

新型コロナウイルス感染症感染症拡大防止として、登園自粛期間を利用し、保育の在り方や保育室の環境設定について職員と検討し、マニュアルを作成した。密を防ぎながらの活動、食事等の保育ではグループ分けを必要とし、活動場所や職員配置等課題も多く、工夫が必要であった。また、定期的な消毒、保護者の園舎への入室制限、各クラス対応での保育実施、出来るだけの対応職員の固定等、今までにない対応となった為、作成したマニュアルを確認することで職員間の共有ができ、状況の変化に応じた対応もスムーズに行えた。園児に対しては当初、心配した環境の変化への不安は少なくなり、順応しながらコロナ禍の生活習慣を身に付ける姿も見られ、丁寧に伝えたことが、子ども自身への感染予防の意識付けとなった。また、コロナ禍の為、室内での活動が多く、園内に於いて園児の転倒が多く見られた。身体感覚がつかめず、物にぶつかる姿も多く見られるようになった。園庭での戸外遊びを多く取り入れながら、身体を動かした遊びに心掛けている。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

園の雰囲気、職員の明るさ等、保護者にとっても親しみやすさを感じて頂いているようだった。日々の職員間での関係の良さが保護者に伝わり、安心感となっている。職員間のコミュニケーションの大切さを感じた。危機管理として一斉メール活用により、評価を頂いた。コロナ禍の為、行事の変更を残念に思われる状況があり、今後も丁寧に説明し対応していきたい。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

感染症拡大予防の対応について職員間にて検討し取りくめた事で、一体感を感じながら、チームワークを築くことが出来たと感じる。また、保育経験の少ない職員も多いことから、保育に対する不安も感じられる。今後は園内研修の充実を図りながら保育知識を広げ、関係の良さを活かし相談、共有に心掛け、保護者対応等でも活かしていけるようにしたい。

5. 1年の総括

新型コロナウイルス感染症による経験を通して、職員が同じ思いで取り組んだ1年だった。これまでの生活の中で当たり前であった保育の流れ考え方等、見直しが必要となった。感染拡大予防を心掛け、手洗い・消毒・検温等の生活習慣、密を防ぐ為の各クラス単位での生活、グループ分けをしながら、食事等、感染症を拡大させない為にどうするかを職員と共に考え共有したことが、これまでの保育を見直す良い機会となった。子どもにとってどうなのか、子ども達は変化をどのように感じて、無理なく受け入れていけるか等、子ども中心とした保育を考える時間を出来るだけ設け、共有を図った。クラス単位で考えがちとなっていた保育が、年齢や発達の繋がりを踏まえ、保育の考え方となり、保育経験の浅い職員にとっても保育を知る機会となった。これからも園内研修を通して保育を考える時間を設け、継続しながら、保育の質の向上に努めていきたい。また、保護者対応として保育室入室制限下の中、どのように様子を伝えていくか等、課題となった。登降園時の対応を出来るだけクラス担任対応としたことで、保護者の不安に直接答える配慮をしてきたが、今後も見える化としてブログ等、情報発信等にて充実させることで、理解して頂けるよう努めていきたい。

令和2年度 西葛西おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	感染症対策を意識し環境、安全で健やかな心地よい生活を心掛ける。(手洗い・うがい・手指の消毒、コーナー活用等)避難訓練は園庭などで密を避けた避難を考える。多目的に使える保育室を活用し給食を少人数で食べる様にする。	新しい生活様式を基本に、日々の生活や活動の中で出来るだけ密を避ける等、様々な工夫をした。年間を通じて園舎内の消毒や園庭遊具の消毒など徹底して行った。コロナウィルスの感染状況も変化して行く中で状況に応じた対策を今後も心がけたい。また、引き続き制限のある生活の中でも子ども達が笑顔で生き生きと心地よく過ごせる様に活動など工夫が必要。
教育	子ども達の興味や楽しいと思う気持ち達成感を感じられるように、保育内容や行事の見直し等の検討を重ね実施する。全てのクラスが毎日園庭での活動が出来る様に時間で区切る等の工夫をする。	保育内容や行事の見直しの中で、何を大切にしたいのか、子ども達の気持ちも考えながら今出来ることを工夫して取り組んできた。改めて一つ一つの行事や活動について検討すると新たな気付きもあった。単年の事ではなく、これからの取り組み方についても考えて行く。散歩などの園外活動が厳しい時期もあり、1クラスずつ全クラスが毎日園庭で遊べるように時間帯を決めた。
子育て支援	コロナ禍ならではの保護者の悩みも多く、支援に努める。入園希望者には園見学会が出来ない時期などは事前に保育園の資料を配布、電話等で説明や質問を受ける。直接対面では無い為、丁寧な対応を心掛ける。	在宅勤務が続き保護者のストレスや外食が厳しい時期の自炊に疲れ母親の精神が不安定になり苦しい気持ちを相談に来るケースも多かった。中には泣き声や怒鳴り声で近隣からの通報により児相から連絡が来た家庭もあった。コロナが子育て家庭に与えた影響を感じる1年だった。園見学が出来ない時期はホームページや資料の配布と電話による説明を丁寧に行った。子育てひろばを望む声も聞こえてくる。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

園内外の消毒、手指の消毒、うがいの徹底。室内の定期的な換気、玩具の消毒。乳児・幼児の登降園の門を分けての登園、保護者の園舎内への出入りを必要最小限にし、登園時には朝の体温や健康状態を記入した健康カードを持参する等、感染症予防をした。職員は出勤後、体温・健康状態を記入、3・4歳児は多目的に使える保育室を活用しクラスを半分に分けて少人数で給食を食べ対策。幼児クラスでは給食の時は飛沫防止パネルを使用。職員は子ども達と一緒に食べない。緊急事態宣言中は運動あそび等の外部講師による活動を行わず、担任による運動あそびやリズムを行った。行事等はその時の状況をみながら中止、縮小するなどの検討をした。保護者には園だよりやクラス便り等で丁寧に伝え、園生活の様子を少しでも伝えられる様に保育園のブログにクラスの偏りがないよう、活動の様子を載せた。ホームページでのお知らせ、園内の掲示に加え、保護者一人一人に届く一斉メールの登録をお願いし、保護者からも掲示を見落とすこともあるので喜ばれている。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

子ども達が安心して生活できる環境への配慮、生活のリズムや体調の確認しながら成長に応じた丁寧な保育を行っているという評価を頂いた。降園時に子どもの様子を伝えているが、担任によって伝え方に偏りを感じるという意見もあった。保護者との子育ての共有と喜びを更に深める為に、その日のエピソード等、伝える内容と保護者の伝えて欲しい内容がずれはないか工夫が必要だと感じた。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

「感染症対策への取り組みを通じて仲間意識が強くなったと感じた」という声もあった。一方、人間関係や年度途中の退職者・産休に入る職員などで後半は職員数も厳しく気持ちに余裕が持てなかったとの声も多かった。(休めない・休憩が取れない・当番の回数が多い等)面談等でゆっくり話を聞く時間を作るなど、コミュニケーションがもう少し必要だったと感じた。改善にむけ努力をしていきたい。

5. 1年の総括

感染症対策を常に考えながらの1年だった。その都度状況をみながら必要な対策を講じ、変化していく感染状況の中で手探りの毎日だったが、新しい生活様式を基準に園として今できる事を考え保育を行ってきた。何かを考える時、決める時も全職員で相談しながら取り組んで来た。その中で、行事のアンケートなどから保護者の思いや感じた事を改めて考える機会になった。未だ先が不安な状況ではあるが、この状況下でも子ども達が笑顔で安心して過ごせる保育環境と保護者の思いに寄り添える園でありたいと思う。今年度、行事など様々な変更もあったが、保護者の理解と協力に感謝している。引き続き、状況に応じて関わる人々の理解と協力を得ながら努力して行きたい。

令和2年度 中葛西おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	保育者との信頼関係の中で安心して過ごせるよう情緒の安定を図る。子どもの気持ちを受け止め、個々の思いに共感し自信を持って生活できる環境を整える。危機管理意識を高めていく。	感染防止に最大限の注意を払った事で保護者理解も得られ感染症の流行は無かった。職員は不安が多い中業務も増えたが、子どもたちの安全を守る為に努力してくれた。少人数での保育・長期欠席の期間はゆったり関り、情緒の安定が図れるよう意識した。長い休みとなったので各家庭が孤独や不安を感じない様、ブログ・メール・電話・手紙の郵送等様々な方法で家庭との繋がりを大切にした。
教育	運動あそび・リズムあそびを通して五感を使って全身の刺激を感じる。リズムあそびでは柔軟性や体幹を意識し、表現を全身で楽しむ。異年齢児との関りを楽しみ、優しさや協調性・憧れの気持ち、他者への関心を深める。	散歩・異年齢・食事等密にならない様クラスを半分に分けて保育・活動を行ったり、身体を十分に動かし、発散できるよう意識した。異年齢児交流は難しかったので、他クラスを意識できるような工夫をし、「新しい生活様式」に沿って子どもたちに伝えた。日々、生活の仕方は変化していたが子どもたちも理解し、身に付けることが出来た。特に幼児の衛生面での意識は大きな変化を感じられた。
子育て支援	保護者の声に耳を傾け気持ちに寄り添う。思いを受け止め専門性を活かした支援をする。専門機関との連携を深め、障がい・虐待等家庭の状況や気持ちに寄り添い支援する。子育て支援の充実を図り、子育ての楽しさを伝える。	外部の方への支援・地域交流は出来ず、次年度の課題となった。距離を保ちながらの保護者対応となったが電話や手紙、メールを活用し、例年以上に園の考えや方針を丁寧に説明したことで理解を得ることが出来た。虐待家庭は各機関との連携を図り、迅速に適切な対応が出来た。保護者、園児の心のケアも配慮し寄り添って対応できたことで密な信頼関係を築き職員にとっても自信に繋がった。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

感染対策、衛生管理については深く考える機会となり全職員が同じように実施出来るよう目に見える形にし、共有できる体制を整えた(掲示・図表化・衛生当番表など)。食事・排泄・歌・行事・異年齢児交流などリスクの高い内容はどのように工夫すればリスク軽減でき、子どもたちが豊かな経験が出来るのかを常に話し合い進めた。基本的には禁止を促すのではなく「こうしたほうがいいね」と提案を提案し、子どもたちにもマイナスイメージにならない様配慮した。消毒や環境改善をしたこともあり、保護者の意識も変化し協力を得られたので感染症は殆ど発症しなかった。園のルールとして毎朝外水道で親子で手洗いをしてから入室することが習慣付き、忙しい時間ではあるが親子の貴重な触れ合い時間にもなっているように感じた。子どもなりに社会の状況を理解し、手洗い・咳エチケット・友だちとの距離・食事の仕方等新しい生活のルールも身についた。保護者の中には危機管理意識に温度差があり全員が同じ意識になることは難しいが今後も繰り返し衛生管理の必要を伝えていく。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

外門の鍵の位置(防犯)、外階段が滑りやすい等保護者ならではの視点でご意見を頂き直ぐに改善できた。一部の職員に対する不満の声があり、一人の言動が自園の評価に繋がることを痛感した。些細な事でも気付いた時には声を掛け、職員間でお互いに指摘できるような関係を作っていきたい。感染対策、自粛期間の保育園の対応等感謝の声を多数頂き職員のモチベーションも上がった。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

「行事内容の見直しが園児、職員双方に良かった・園内研修は全員で危機管理の共有が出来た・話しやすく相談しやすい雰囲気・感染対策は状況変化に応じ迅速に対応できた」等、全職員で共有出来ていると感じられる声に心強さを感じた。混乱の中でも共有し、園としてすべきことを実施できたことは園への信頼と職員個々の意識も高まる結果となった。休憩の取り方に課題が残った。

5. 1年の総括

コロナ禍での保育で初めての経験であったが、職員で意見を出し合い、感染防止に全職員で臨めたことは結束を強める結果となった。園長としての判断も多く求められたが、職員の協力があつたことで一体感が生まれ心強かった。保護者へも都度ホームページ・メール・電話、手紙等で園の状況や考えを丁寧に説明することで混乱を最小限にする努力をした。多数の保護者に協力、理解を得られ、日々の関係性の大切さを実感した。密を避けることで保護者との対面の機会が減ってしまう状況であったので、次年度は更なる工夫が必要と感じる。健康管理・衛生管理・行事のあり方・保育内容を深く考える1年となり、優先課題として取り組んだ半面、事故や自然災害などの危機管理の部分が十分な時間を取れず、共有できなかったのが反省として残る。職員は感染拡大の社会状況に不安が多くある中、「子どもたちの心と成長」「保護者の気持ち」「園の運営」を考え、全力で努力してくれた。職員のチームワーク、保護者理解と協力が園運営に大きな影響を与えることを痛感した1年であった。

令和2年度 松島おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	子ども一人一人の年齢や発達に応じた関わりを行い、子どもの気持ちを受け止め丁寧に関わる保育をすることで、安心して生活できるようにする。 ヒヤリハットやマニュアル等を活用し、全職員が安全への意識を高め、安心安全な環境づくりをしていく。	乳児は少人数のグループに分かれ生活や活動が出来るようにした。少人数にすることで子ども一人一人と丁寧に関わることが出来、落ち着いた環境の中、気持ちに寄り添う保育に繋がった。ヒヤリハットの日頃から昼礼や職員会議での報告や事故防止の園内研修を通して安全への意識が高まった。今後更に改善策を話し合うなど安全に対する気付きを高めていきたい。
教育	子どもが主体的に考え工夫しながら遊び行動できるよう、気づきや興味・関心を受け止めた計画、実施・反省を行い、遊び込める援助をし、遊びの幅を広げる。行事の目的を再度確認、検討し、連続性のある行事の在り方を検討する。	幼児クラスでは夏祭りのおみこしを子ども達で作りたい形を考え話し合い完成させたり、子ども達の声からお化け屋敷を行う等の取り組みが出来た。しかしまだ不十分な面がある為「子ども主体との保育とは何か」を考える機会を設け具体的に行えるようにしていきたい。行事への取り組みはコロナの感染予防も含め、目的から考え検討し進めたが、日々の保育との連続性という部分はまだ難しさがある。
子育て支援	保護者の声に耳を傾け、寄り添い、求めている思いを知り、必要な支援を行う。子育てひろばや保育所体験の充実。地域の方に行事や避難訓練等に参加して頂き、地域の子育て支援としての拠点として保育園を感じてもらえるようにする。	参観等保護者と接する機会が少なくなったが、必要に応じて個人面談等適宜行い必要な支援を行った。また、日々登降園でのコミュニケーションを大切にする等、保護者の思いを聞き寄り添うことを心掛けた。コロナにより在宅勤務になる等、働き方が変わった保護者への配慮も必要だった。子育てひろばや地域の方との交流はコロナの為行えなかった。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、園舎内や玩具等の消毒の徹底、クラス間の交流をできる限り少なくし密を避けた保育を心掛けた。保護者の園舎内への入室制限、手指消毒・マスク着用・換気等、感染予防対策を徹底、保育活動や行事に制限がある中でも子ども達が日々楽しく充実した生活が送れるよう、クラスごとの行事計画、日々の保育での廊下の活用、お別れ会は園庭で行いクラスごとに分散して参加する等、コロナ禍で出来ることを話し合い工夫して取り組んだ。子ども達にも年齢に応じて感染症について説明し、丁寧に手洗いをしたり食事中の会話を少なくする等感染予防を促している。保護者に対しては、一斉メール等で必要に応じ、随時お知らせを出せるようにした。感染症対策の効果から毎年流行するインフルエンザ等の感染症については大幅に減少した。危機管理では、重大事故防止や防犯訓練等を園内研修で行い意識の向上に繋がった。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

職員がいつも明るく笑顔でいる、園全体がアットホームな雰囲気、コロナ禍で感染防止に努めながらも工夫し、保育や行事への評価は良かった、反面、保護者参加の行事が少なくなり、職員との関わりが減り園の様子が伝わりにくいという意見、設備の安全管理に不安を持つ意見がある。日々の保育の見える化を行い、状況を知らせる工夫、設備についても安全強化に努める。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

感染予防に対する意識が高まった。「新しい生活様式」で保育を見直し工夫する機会になった、休みがとりやすい等の評価がある。一方で会議が多い、意見が言いづらい、職員体制が厳しい等の意見がある為、業務軽減や会議の在り方を見直し改善していく必要性を感じる。又、職員との日頃からのコミュニケーションを心掛け、良好な人間関係作りに努める。

5. 1年の総括

1年を通し感染症対策が主となったが、「新しい生活様式」への取り組みを職員全体で考えながら保育を行った。日々の保育を見直す良い機会と捉え、前向きに保育に向き合えるよう、子ども達の為に今出来る事は何か、今後どうしていきたいかを話し合ってきた。感染症対策で始めた取り組みとして、子どもの育ちの違いを実感すること、一人一人に寄り添う保育の大切さに気付く良い機会となった。「子どもが主体的に行動できる保育」「日々の保育の積み重ねとしての行事」という点ではまだ十分に実行出来ていないので、保育について話し合う機会や園内研修等設け全職員が同じ目的に向かって進めるようにしたい。又、感染症により保護者が保育園の様子を知る機会が減少した為ブログでの発信や園内の掲示に写真を入れる等の工夫をしたが、更に保護者と共に子どもの成長を喜び共感できるよう、日々の保育の取り組みを保護者にわかりやすく知らせる工夫と努力をしていきたい。今後も感染症対策を徹底しながら危機管理に努めていく。

令和2年度 清新第二おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	園児一人一人の発達に合わせた保育を進めていくと共に、様々な体験(行事等)の中で五感を刺激した保育を進めていく。 安全な保育環境について、話し合い危険予測や意識を高め再発防止に努めていく。	様々な体験(行事等)が制限される中で「どのようにしたらできるのか」「どのようにしたら子ども達は喜ぶのか」という前向きに捉えた考えを持ち、子ども達への声掛けや装飾等にも力を入れ、職員全員で子ども達の気持ちが高まるよう盛り上げ進めた。 常に子どもの目線で考え、「遊具の確認、点検」を行うと共に「遊具の使い方」を子ども達にも随時知らせた。
教 育	体力向上に努め、諦めずに粘り強く行おうとする気持ちや、出来た喜びや達成感、思いやる気持ち、協調性といった精神面の強化を行い、自信につながる様に進めていく。また、挨拶の徹底とやるべき時と遊ぶべき時のメリハリのある保育を進めていく。	園外に出て活動(散歩)する事が少なかったため、園庭にて鬼ごっこやリレー、ドッチボール、体育遊び等、活発に動く事を増やし、体力向上に努めた。また、クラス毎や子どもの接触(密)に十分配慮した保育を行った。 職員自ら率先して、挨拶の徹底やメリハリのある保育について、子ども達に伝える姿が見られていた。また、イスの座り方が悪く注意や指導する事が多くあった。
子 育 て 支 援	子育て家庭のニーズと地域の実情の把握に努め、他機関との連携及び協働による相談や援助を行うと共に魅力ある開かれた施設として進めていく。	子育てひろば等、外部に向けての発信は出来なかったが、緊急事態宣言期間中で家庭保育の在園児家庭に対して定期的に連絡を取り、子育ての悩みや相談等を行った。また、他機関と様々な情報共有に努めた。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

「新しい生活様式」を基に保育を進め、日頃の保育や行事など「どのようにしたらできるのか」「どのようにしたら子ども達は喜ぶのか」という前向きな考えの中で保育を進め、時間差でクラス毎での行事開催や各保育室での行事の実施、放送や手紙、オンラインなどを活用し子ども達が楽しめる内容を考え保育を進めた。
保護者に対して、「一斉メール」登録の協力を頂き、ホームページを活用し緊急情報等を配信し各種情報を知せた。日々の検温やマスクの着用、消毒、換気の徹底に努めたため、他の感染症に罹る事が少なかった。
子育てひろばや入園見学、実習生、業者などの外部の方との関りが少なくなり、保育ではお散歩や異年齢児との関りが少なくなってしまった。
保育室内の清掃と整理整頓を行い、危険と思われる場所に対して補修をしたり、クッション等を付け事故防止に努めた。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

コロナ禍という事もあり、保護者との関りを十分に持つよう進めてきたが、保護者の声を聴くと「対面での関わりが少なかった」「積極的に保護者と関わりを持とうとする職員とそうでない職員」がいるとの声が多く聞かれた、全職員で第三者評価の集計結果を基に再度、保護者との関わり方について話し合いを設け対応にあたる。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

総体的に自分の保育に自信を持ち、他職員と連携を図り保育を進めていた。しかし、保育士不足という事で他クラスへのフォローに入る事が多く、任されたクラスの子ども達との関わる時間が少なくなってしまった。

5. 1年の総括

新型コロナウイルスの感染拡大防止という事で、今までの保育や行事等の進め方が一変し、模索状態の中で保育を進めた。しかし、常に「感染防止に努めた上で子ども達の事を第一に考えた保育」を考え、その中で新しい保育や行事等の進め方を見つける事もできた。また、他クラス同士の関わりや園外での遊びなどは少なくなってしまった。限られたスペースの中で密を避けるため、職員が一同に会して話し合いを設ける事が難しくなり、掲示や伝達等で職員の共通認識を図るも、より深い所まで伝える事ができない状況であり、共通認識を持たせていく事が非常に難しく、様々なクラスに入る機会を増やしたり、積極的に職員へ話しかけるなどコミュニケーションを図り、情報の共有に努めた。次年度はオンラインを更に活用し情報共有の取り組みが必要と考える。
保護者の働き方の変化や入園希望数の減少傾向により、次年度の保育運営(特に収支の部分)を考える必要を感じる。

令和2年度 北小岩おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	緊急事態宣言下で保護者に協力頂き、保育園としての役割を職員一同自覚し、密を避ける、手洗い、消毒、うがい、マスク着用、検温など徹底的に行った。結果的に子どもにも身につき日常生活に溶け込んだ。	「新しい生活様式」と言うことで、園舎内への立ち入りの制限、保護者にも消毒のご協力をお願いした。しかし、保護者会や個人面談等、子どもの共通理解の出来る話し合いが、持てなかった事は残念であった。今年度の動向を踏まえた上で、保護者との連携、対応に努力したい。
教育	就学に向けて、子どもに育て欲しい項目をあげ、一つずつ検証した。1歳児からの積み重ねを大切にし、どのように育ち、就学に向けて発展していくか職員で把握した。担任のみではなく、一人ひとりの特性、成長課題を理解した。	例年、小学校との交流があり、年長児は就学に向けて意欲、期待が大きく膨らむのだが、コロナ禍の為、交流が持てず残念である。近隣小学校には入室する事が出来なかったが、小学校生活や日常の様子を職員が説明し工夫した。又、体育講師も休みの為、今まで指導して頂いた鉄棒、縄跳び、マットを積極的に職員が遊びに取り入れた。
子育て支援	今年度は、全く子育て支援の取り組みが出来なかったのが残念であった。今後は、オンラインの活用等、保育園の様子や、遊びを楽しんで頂ける様な企画を工夫したい。	子育てひろばが出来ない事で、近隣との繋がりが薄くなった事が残念である。今後、保育園の役割を理解出来るような工夫が必要。具体的に、地域子育て支援を発展させていくかは、今後の課題として、更なる工夫と改善策を考えたい。

2. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

危機管理として、新型コロナウイルス感染症対策として、日々の検温、手洗い、うがい、消毒、換気の徹底に心掛けた。このことは継続したい。又、コロナ禍であっても、避難訓練、火災、水害、地震等、災害の対策を具体的に対応が必要ということを感じ、毎月様々な訓練に取り入れた。今後特に、避難場所が密にならないようにすることが必要な為、対応も考えたい。感染症に対しては令和2年度にインフルエンザ等他感染症が一件も出なかったのは、やはりマスクの着用、手洗いの励行の効果が見えるものと思われる。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

回収率は高くはなかったが、多く満足という評価を受けている。特に清掃面では、衛生的であり掃除が行き届いているという評価をいただいている。日々の活動については大変満足し、保育園が心身の発達に役立っているという良い評価もいただく。職員の対応に若干開きがあるという指摘もあり、今後の課題である。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員からの評価は、保護者に対する丁寧な対応を全体的に理解し、保育サービスに対する前向きな姿勢が感じ取られる。働きやすい職場と捉え、職員同士の連携が感じられるという意見はうれしく思う。

5. 1年の総括

今年一年は、新型コロナウイルス感染症により、入園式を初め、殆どの行事が中止、縮小、行事に対する共通理解を持って保育にあたる事が出来なかったが、しかし、保育園側の創意工夫を行うことで、子ども達が楽しめる保育が出来たことは、チームワークが徐々に出来上がった結果だと思う。今後も、職員一人一人が保育について、レベルアップすることで、更なる強固なチームの形成が期待できる。行事の見直しや標準化を改めて考える良い機会となり、職員が協力して一人ひとりの力を発揮していきたい。

令和2年度 南篠崎おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養護	職員全員で、園目標、保育方針、子どもの人権、言葉かけについて学び職員の共通認識や個々の意識を高め、一人ひとりに愛情をもって接していく。	新型コロナウイルス感染症のため、緊急事態宣言が発出されたが、通年を通して会議や研修の中で学びあい、職員間の意識を高め、子どもたちにとって大切なことなどを話し合い保育に向き合うことが出来るとよかったと感じた。職員間で、継続して努力し取り組んでいる。「子どもたちに対し大きな声ではなく、子どもたちにとって心地よい声の音量で伝える等今後も丁寧な保育を続けた。
教育	自分の好きな遊びをじっくりと楽しめるような環境を作り、満足感が味わえる経験を大切にしていく。異年齢児の関りや身体を多く動かす取り組みを多く取り入れ、心の育ち、基礎体力や体幹の向上、心身の発達に繋がるような活動を行う。	職員が保育室、玩具など工夫し子どもたちがじっくりと好きな遊びを楽しめるよう、必要な援助や配慮を行い、それを見守りながら遊びの発展に繋げた。異年齢児の直接的な活動は感染症予防のため、難しく、子どもたちにとって、他児を意識できるよう声掛け等を行った。日々の保育の中で全学年がリズム遊び、幼児クラスは運動遊び、体操を継続、子どもたちの心の解放感や身体的発達に繋げた。
子育て支援	家庭状況をしっかりと把握、理解し必要な援助を細やかにできるようにし、保護者との信頼関係を大切に情報の共有に努める。子育てひろばなどを通し保育園を広く知って頂き、地域に根差した保育園をめざす。	登園自粛中、家庭に対し、電話連絡を週1、2回程度行い、子どもの様子、保護者の話を伺うことで状況把握した。状況に応じ登園を促すこともあった。個人面談を行い信頼関係を深められるように努力するとともに、個々の状況に応じた援助や配慮を丁寧に行い、職員の連携を取り継続とスキルアップに繋げた。見学希望の問い合わせ等出来るだけ丁寧に対応した。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

感染状況を踏まえた法人全体での取り組みを丁寧に履行、保育室、玩具の消毒、定期的な換気などを細目に行った。職員も園の「新しい生活様式」をしっかりと理解し、取り組んで行った。登降園は玄関、園庭からの2方向式を取り入れ、密にならないよう工夫し、消毒薬を設置、保護者へ声がけ、使用を促し、保育の中で園児、職員共に丁寧な手洗い、うがいを日々行うことでしっかりと習慣づけた。職員は出勤前に、必ず検温と健康チェックを行い保育に臨み、子どもたちも登園前に検温をお願いした。食事はグループごとに時差をつけ取り、簡易パーテーションを用いた。園内の消毒については午睡時間や降園後行った。これらのことで季節的に流行する感染症も最小限に抑えることが出来たように感じた。これからも丁寧な取り組みが大切になるので、その都度、職員の共通認識を図り、感染症予防に努めていく。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

総合的に満足度も評価されているが、園として取り組みやさらに工夫をしてほしいという意見もあり、内容を精査しながらできるだけ改善できるよう検討していきたい。
送迎時の伝達漏れや、報告や対応の差があるなどのご意見も、職員会議や園内研修を通し改善、実行できるようにする。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

職員で協力し保育を行うところは良いと思う職員もいる反面、振休や休みの職員がいると他クラスへ協力へ行きた為、自身のクラス運営がしっかりとできなかったり、伝達がしっかりとできているか不安という意見もあり、改善策を検討し取り組む。賛否両論あるが職員の気持ちに寄り添い、改善できることは検討したい。

5. 1年の総括

新年度を迎える前から、保護者、職員共に新型コロナウイルス感染症に対する不安、そして、それらを取り巻く環境に対して丁寧に対応した。
法人統一の対応もあったことは職員にとっては、安心して保育に臨むことができた。登園自粛が始まる中で保護者との信頼関係や子ども達の関係や関りなど、保育についての難しさを懸念したが、職員一人ひとりの努力と保護者の協力もあり、良好に進められたことは本当にうれしく思った。引き続き、状況に応じ必要な援助や配慮を含め丁寧にかかわっていききたい。
保育運営については経験のある職員も多いこともあり、検討を重ねながら感染症を理由にできない、出来なかったではなく、どうすればよいか？しっかりと考え検討し取り組んでいきたい。

令和2年度 新田おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	子ども一人ひとりと、より深く向き合う保育を行った。 子どもの為の、行事として見直しを行った。 当たり前基準の見直しと確認を行い、職員の共通認識を深めた。	密にならない生活や行事を行う対策をとったため、日々の保育や行事を見直す機会となった。クラス単位での遊びがメインとなり、保育園ならではの異年齢児との関わりが出来なかったことはとても残念なことではあったが、「子ども達に何をどう伝えるか」という視点で考えられたことはとても良かった。コロナ対策が中心となり、当たり前基準を徹底することに欠けていた点は反省点である。
教 育	専門講師の運動遊びがコロナ対策で中止となり、日々の保育の中での遊びを充実させた。	1回目の緊急事態宣言中に、玩具の見直しを行った。手作りのままごと玩具等を十分に補充出来たことはとても良かった。また、クラス毎の活動で子ども達が主体的に遊び込めるよう、クラス会議で常に議題に上げ話し合った。コロナ禍ではあったが、子ども達は園に来ることを楽しみ充実。しかし、園庭を使う時間等交代であったり、散歩も中止という状況の為、子ども達の体力面では心配な点もある。
子 育 て 支 援	コロナ感染症予防対策の為、子育てひろばが中止となり地域の方との関わりが出来ていない。 保護者とは、年間通して個人面談を受け付けた。	子育てひろばの開催が難しく、地域の方のための支援が出来なかった。 園内の子育て支援を充実させたかったが、個人面談を希望する方も少なく、保護者へ発信する力が弱かったことを感じている。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

感染症対策として、法人全園共通で新しい生活様式を考え「その5」まで発出し、それに従い保育を進めた。
子どもは手洗い、うがいを徹底し、幼児のマスク着用については保護者の判断に任せた。保護者には園舎内への立ち入りを禁止し、テラスでの受け入れ態勢を整え、送迎は保護者1名とした。園門にアルコール消毒を用意し、手指消毒を徹底して行った。職員は手洗いうがい、室内の消毒、マスク着用、園児と給食を食べないことを徹底した。当たり前のことを徹底したことで例年流行る感染症もほぼ出ていない。また、コロナに関してもPCR検査を受けたという保護者からの報告も数件であった。保育では、園庭やホールは時間を決め交代で遊び、異年齢児との交流を行わないことを徹底した。異年齢児との関わりがないことは物足りなかった点ではあるが、感染症対策や安全面を考えると効果的であった。その他、外部との関わりを一切行わなかった点は、感染者と出さない対策としてとても良かった点である。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

保育園に対する総合的な感想は、満足以上の回答が95.9%だった。感謝や信頼を寄せる声が多く、満足度が高い様子が読み取れるという調査全体のコメントもいただいた。「クラスを越えて職員全体で保育をしていて、何事にも柔軟に対応している」という感想は特に嬉しかった。改善点は真摯に受け止め、職員との会議の中で報告書をもとに振り返りを行った。更に向上していきたい。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

民営化後2年が経ち、チームワークが良くなったと感じている職員が多く、職員同士助け合いながら仕事が出来ているようである。また、保育の悩み等を相談しやすい環境でもあると感じている点は今後も向上させたい。休憩が取れる環境作りにも取り組んだが、それぞれの意識の違いを感じている職員もいるようなので、休憩だけに限らないが共通の認識を持つための対策を考えていきたい。

5. 1年の総括

年度当初よりコロナに始まり、当たり前のことが当たり前のようにならなくなった日々は、様々なことを見直す良い機会となった。
一番考えることが多かったのは日々の保育、そして行事であった。「本当に子ども達に伝えたいことは何か」を考え保育をしていくことが大切であると感じた。異年齢児との交流が出来なかったことはとても残念ではあったが、クラス単位でのみの保育は、今まで以上に、子ども一人一人の事を考え、関わる事が出来た。結果、それが日々の保育を充実させ子ども達にもとても良い環境となった。行事については、目的や内容を常に全体で話し合い行事をやる為の保育ではなく、保育の中の行事を進めることが出来た。ただ、保護者との関わりが登降園時のみとなり、日々の保育を具体的に伝える難しさも同時に感じ課題となった。感染症対策に関しては徹底して行ったことで、コロナを含め他の感染症が出なかったことはとても良かった。引き続き、感染症対策を万全に行っていきたい。今年度見直しが出来た点を次年度にしっかりと繋げていきたい。

令和2年度 宇喜田おひさま保育園事業報告

1.年間報告

2021/3/31

	年間実施内容	評価と反省
養 護	一人一人の子ども達と向き合い、気持ちを受け止め、自己肯定感を育めるようにした。民営化後室内外の環境を大きく変えることなく進めてきたが、安全で快適な環境になっているかを確認しながら進めた。	開園1年目なので、様々な場面で職員と確認しながら進め、振り返りをした。しかし、新型コロナウイルス感染症で緊急事態宣言が発出され、計画通りに進まなく変更等、話し合いの機会が多くなり、職員への負担にはなったと思う。また、法人の基本理念を事務室に掲示し意識できるようにしてきたが、職員が内容を理解し、保育の中に落とし込めているかという点、十分とはいえなかった。
教 育	散歩コース、マニュアルの確認等をした。園外活動を通して自然に触れ、本物に出会える機会を大切にしてきた。保育所保育指針や、卒園までに育みたい10の姿をもとに子どもが主役の保育をしてきた。	緊急事態宣言の発出解除後も、「新しい生活様式」を元に保育を進める中、散歩にで出かける回数も減り、出かけても遊具の使用が出来なかったりと子どもにも窮屈な思いをさせてしまった。限られた行動範囲内で出来るだけ、子どもたちが伸び伸びとあそび、自発的に行動できるよう工夫した。
子 育 て 支 援	新型コロナウイルス感染症の収束が見込めず、今年度予定していた子育て支援事業は行えなかった。在園児家庭の子育て支援は積極的に行えた。	新型コロナウイルス感染拡大の観点から、10月から予定していた子育てひろばを行うことが出来なかった。次年度はリモートや今までとは違う形で子育て家庭の支援をしていけたらと思う。また、在園児家庭においては児童相談所と連携している家庭もあり、必要に応じて保護者と面談をしたり、継続的に見守るようにした。

4. 危機管理、感染症対策※コロナ禍の保育園での対応

感染症の疑いのある子どもには、通院を依頼するとともに、必要に応じて、登園許可書の提出も併せてお願いした。また、掲示にて感染症発症の情報提供をし、感染症蔓延防止に努めた。危機管理に関しては毎月実施している消防訓練等を確実なものとし、様々な災害を想定した訓練を実施。都度振り返りを行い、命と向き合う仕事であることを職員に伝えた。また、夏のプール遊びも暑さ指数や気温、職員体制など様々なことを鑑みながら、法人のマニュアルをベースに進めつつ、職員一人一人の危機管理意識を高めた。

新型コロナウイルス感染症においては、子どもの毎朝の体温確認と体調の把握、職員も同様に書式を作成し記録を残すとともに体調の把握を行った。換気や園内の消毒を毎日行い、園児・職員の手洗いやうがい、手指消毒の徹底を行い職員はマスクの着用と園児とは別室での昼食をとることを徹底した。

3. 第三者評価 保護者からの評価を受けて

民営化1年目の年ではあるが、第三者評価の保護者のご意見は大変温かい言葉が多く嬉しく思う。その中でも、「職員とのコミュニケーションが少なくなった」「民営化への期待やおひさま保育園の特色などをもっと取り入れた保育を展開して欲しい」等の要望もある。また、コロナの影響もあり、保育園での子どもの様子が見えない等のご意見もあり、情報の発信方法が今後の課題である。

4. 第三者評価 職員からの評価を受けて

支援の必要な子どもや家庭も多く、専門機関との連携を図り、定期的に臨床心理士に子どもの状況をみてもらいながら、対応を図れるように、次年度から計画を立てる。

5. 1年の総括

令和2年4月に開園し、区立宇喜田保育園の保育を継承し、おひさま保育園の特色を少しずつ取り入れた保育をスタートしようとした矢先、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、緊急事態宣言が発出された。そのために様々な保育活動に制限がかかり、行事も縮小や中止が余儀なくされ、子どもたちの成長に影響しないよう、職員が保育に相違工夫を凝らしながら過ごした1年間であった。職員は皆、保育力はあるものの、チームとしては、まだまだ弱い部分もあり、時には個々の思いが強く出てしまい一丸となるまでには、至らなかったように感じたこともあり、引き続きチームを作ることが課題である。

新型コロナウイルス感染症に伴うお知らせ発行一覧

江戸川区	配布時期	社会福祉法人 えどがわ
・保育園児の新型コロナウイルス感染症の公表と感染防止の協力について	令和2年4月3日	
第一回 緊急事態宣言発令	令和2年4月7日	第一回 緊急事態宣言発令
子ども家庭部長(通知) ・緊急事態宣言に伴う登園自粛について	令和2年4月8日	緊急事態宣言期間中のおひさま保育園での保育について
	令和2年4月14日	新型コロナウイルス感染拡大防止に関する含むの取り扱いについて (法人指定休暇通知)
江戸川区長(通知) ・新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた認可保育園・学童クラブ等の利用制限について(依頼) 子ども家庭部長(通知) ・緊急事態宣言期間中における保育園の利用について	令和2年4月15日	緊急事態宣言中の保育園発信 ・ブログ発信 ・各家庭への電話連絡 ・手紙の郵送
	令和2年4月17日	新型コロナウイルス感染拡大防止に関するサービスの取り扱いについて (在宅勤務及び勤務免除 通知)
	令和2年4月20日	閉園時間 お休みの臨時対応のお知らせ
子ども家庭部長(通知) ・保育園の運営に携わる皆様へ～感謝と敬意をこめて～	令和2年4月21日	緊急事態宣言期間の職員配置及びサービスについて
子ども家庭部長(通知) ・保育園の利用制限期間の延長について	令和2年4月27日	・保護者一斉メールの開始 ・夜間・休日連絡の電話転送開始
子ども家庭部長(通知) ・保育園の利用制限期間の再延長について(5月31日まで)	令和2年5月7日	緊急事態宣言延長に伴うサービスについて
子ども家庭部長(通知) ・6月以降の保育の対応について(新型コロナウイルス感染拡大防止)	令和2年5月22日	
第一回 緊急事態宣言解除	令和2年5月25日	第一回 緊急事態宣言解除

新型コロナウイルス感染症に伴うお知らせ発行一覧

江 戸 川 区	配布時期	社会福祉法人 えどがわ
	令和2年5月25日	今後のおひさま保育園の対応について (新型コロナウイルス感染拡大防止)
	令和2年5月29日	おひさま保育園の新しい生活様式
	令和2年6月22日	おひさま保育園の新しい生活様式 その2 (緩和)
	令和2年7月10日	新型コロナウイルス感染防止対策に関する「お知らせ」と「お願い」
	令和2年7月17日	臨時休園等にかかる対応について
	令和2年10月9日	おひさま保育園の新しい生活様式 その3
	令和2年11月25日	新型コロナウイルス感染防止対策に関する「お知らせ」と「お願い」
	令和2年12月21日	おひさま保育園の新しい生活様式 その4
		※12月29日～1月3日までの年末年始 緊急連絡時の転送電話設定
子ども家庭部長(通知) ・緊急事態宣言期間中における保育園の利用について	令和3年1月6日	「緊急事態宣言下における職員の行動指針」 1月からのおひさま保育園での運営方法(保育)について
第二回 緊急事態宣言発令	令和3年1月8日	第二回 緊急事態宣言発令
	令和3年2月3日	緊急事態宣言延長に伴うおひさま保育園での運営方法(保育)について
	令和3年3月1日	法人職員PCR検査 全員陰性のお知らせ
	令和3年3月8日	緊急事態宣言の延長による「おひさま保育園運営」(保育)について
第二回 緊急事態宣言発令解除	令和3年3月21日	第二回 緊急事態宣言発令解除
	令和3年3月30日	コロナウィルス感染症に対しての保育園の運営体制について
	令和3年4月1日	おひさま保育園の新しい生活様式 その5
蔓延防止等重点措置	令和3年4月12日	蔓延防止等重点措置
子ども家庭部長(通知) ・緊急事態宣言期間中における保育園の利用について	令和3年4月23日	新型コロナウイルス感染症に関わる保育園の対応について 緊急事態宣言発出に伴う運営方法変更のお知らせ
第三回 緊急事態宣言発令	令和3年4月25日	第三回 緊急事態宣言発令
	令和3年5月7日	緊急事態宣言延長に伴うおひさま保育園での運営方法(保育)について